



令和 6 年度

所沢市教育委員会の事務事業に関する
点検評価報告書

(令和 5 年度事業対象)

令和 6 年 8 月

所沢市教育委員会

「所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書」は、「第2次所沢市教育振興基本計画（令和元～5年度）」の施策体系図に基づく主要施策を点検評価の対象としています。

第2次教育振興基本計画

■ 基本理念

みんなが持っている 三つの“宝”を掘り起こして大きく育てます

- 一 心身のたくましさ
- 二 未来を拓く知恵^{ひら}
- 三 ふるさと所沢を愛する心

■ 基本方針

- 1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
- 2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
- 3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります

■ 計画を進めていくうえでの3つの視点

様々な分野と連携した横断的・総合的な教育

ふるさと所沢が持っている地域資源を生かした教育

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）

目 次

<ページ>

1	趣 旨	1
2	点検評価の対象及び実施方法	
	(1) 点検評価の対象	1
	(2) 点検評価の実施方法	1
3	点検評価表の見方	2
4	施策体系図	3
5	学識経験者の意見	
	(1) 各施策に対する評価について	6
	(2) 今後のあり方について	11
6	点検評価表	
	基本方針 1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます	
	基本目標 1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます	12
	基本目標 2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます	20
	基本目標 3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします	29
	基本方針 2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます	
	基本目標 1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます	33
	基本目標 2 誰もが、いつまでも身体を動かしたくなるマチをめざします	38
	基本目標 3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします	42
	基本目標 4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます	47
	基本方針 3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります	
	基本目標 1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます	53
	基本目標 2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます	56
	基本目標 3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます	61
7	指標の達成状況	69
8	教育委員会の活動状況と教育費の予算、決算	
	(1) 令和 5 年度教育委員会会議の開催状況	75
	(2) 令和 5 年度教育費予算・決算	76
9	むすび	79

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条により、教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成・公表することが義務付けられています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

所沢市教育委員会では、この規定に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、事務事業の透明性を確保し、市民への説明責任を果たすため、平成 20 年度から「教育委員会の事務事業に関する点検評価」（以下「点検評価」といいます。）を実施しています。

本報告書は、令和 5 年度に実施した事務事業に対する点検評価についてまとめたものです。

2 点検評価の対象及び実施方法

（1）点検評価の対象

所沢市教育委員会では、本市における教育の振興を図るため、令和元年度に、「第 2 次所沢市教育振興基本計画（令和元年度～令和 5 年度）」（以下「第 2 次計画」といいます。）を策定し、計画に基づいて教育行政を推進しています。

このことから、「第 2 次計画」の施策体系図に基づく主要施策を点検評価の対象とすることで、同計画の適正な進行管理を行うとともに、効率的な教育行政の推進に資するものです。

（2）点検評価の実施方法

「第 2 次計画」は、3 つの基本方針、10 の基本目標、46 の主要施策から構成されており、教育委員会では、この施策体系に沿って重点的に進める事業を定めた単年度実施計画である「所沢市教育行政推進施策」（以下「推進施策」といいます。）を毎年度作成して、各施策を総合的・計画的に推進しています。

このため、「第2次計画」に掲げられた46の主要施策すべてについて点検評価表を作成して、現状と今後の方向性を点検評価するとともに、「推進施策」に定められた重点事業及び主要事業の実施状況についてもあわせて掲載しました。

点検評価表については、教育に関する学識経験を有する方からご意見・評価をいただいております。

・外部点検評価委員（敬称略）

秋草学園短期大学准教授

伊澤 永修

元所沢市立中学校長

内野 正行

所沢市社会教育委員

小沢 貞泰

また、「第2次計画」に示されている36の指標の達成状況についても確認を行い、その結果を巻末にまとめています。

3 点検評価表の見方

施策の目標

「第2次計画」に掲げられた施策ごとの目標を記載しています。

施策の内容と今後の方向

目標の実現のため、施策の内容、今後取り組んでいく方向を記載しています。

主な事業の実施状況・評価

「推進施策」に定められた重点事業及び主要事業の実施状況について、令和5年度に実施した内容及び評価を記載しています。

4 点検評価結果

(1) 施策体系図

基本方針	基本目標	主要施策	令和5年度の主要事業(太字は重点事業)	頁
1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます	1 確かな学力と自立する力を育てます 1 未来への一歩となる 確かな学力と自立する力を育てます	(1) 確かな学力の育成	「学び創造アクティブ PLUS」学力向上推進事業	12
			「トコロんのびのび塾」算数基礎学力向上プロジェクト事業[新規]	13
			学習支援員配置事業	13
			学力向上支援講師配置事業	13
			教育課題に対応した学力向上推進事業	13
			確かな学力定着事業	13
		(2) 伝統・文化の尊重とグローバル化に対応した教育の推進	小学校外国語活動推進事業	14
			教育課題に対応した学力向上推進事業	14
			ふるさと研究活動事業	14
		(3) 情報教育の推進	ICT推進事業	16
			ICT支援員配置事業	16
		(4) キャリア教育の推進	中学生社会体験チャレンジ事業	17
		(5) 特別支援教育の推進	特別支援教育支援員等配置事業	18
	(6) 幼児教育の推進	- その他の事業 - 所沢第二幼稚園運営事業	19	
	2 思いやりのある豊かな心を育てます 2 一人ひとりが持っている 思いやりのある豊かな心を育てます	(1) 道徳教育の推進	豊かな心育成支援事業	20
		(2) 環境教育の推進	地球にやさしい学校づくり推進事業	21
		(3) 体験活動の推進	特色ある学校づくり支援事業	22
		(4) 読書活動の推進	学校司書配置事業	23
		(5) 生徒指導の充実	健やか輝き支援事業	24
			安全・安心な学校と地域づくり推進事業	25
		(6) 相談体制の充実	スクールカウンセラー学校派遣事業	27
			教育相談アドバイザー支援事業	27
			健やか輝き支援事業	27
			教育相談事業	28
	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします 3 心身ともに たくましく生き抜く力を 伸ばします	(1) 学校保健の充実	園児・児童・生徒健康診断推進事業	29
			児童生徒食物アレルギー対応事業	29
		(2) 学校給食・食育の充実	学校給食センター再整備事業	30
			第1学校給食センター受水槽外改修事業	30
			学校給食食育推進事業	30
		(3) 安全・防災教育の推進	健やか輝き支援事業	31
(4) 体力の向上		地域力活用運動好きな子ども育成事業	32	

基本方針	基本目標	主要施策	令和5年度の主要事業（太字は重点事業）	頁
2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます	(1) 学習機会の充実	学習講座等開催事業	33
			トコろん自習室開設事業[新規]	33
		(2) 学習活動の支援	生涯学習情報紙発行事業	34
			IT相談事業	34
			生涯学習まちづくり出前講座事業	34
		(3) 学びの成果の活用	生涯学習ボランティア人材バンク運営事業	35
		(4) 人権教育の推進	人権教育推進事業	36
			学校人権教育啓発資料発行事業	36
		(5) 公民館事業の充実	公民館主催事業	37
		2 誰もが、いつまでも身体を動かしたくなるまちをめざします	(1) 市民の健康・体力づくりの推進	所沢シティマラソン大会開催事業
	第3次所沢市スポーツ推進計画策定事業			38
	スポーツ教室開催事業			38
	(2) 競技会場の確保や交流機会の充実		ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設活用事業	40
			ところざわアスレチックフェスティバル開催事業[新規]	41
	(3) スポーツに触れる機会の充実		イタリア選手団事前キャンプ受け入れ事業(世界水泳 2023 福岡大会)[新規]	41
			スポーツ大賞表彰式開催事業	41
			第9期電算システム再構築事業[新規]	42
	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします		(1) 図書館サービスの向上	所沢図書館分館施設管理運営事業
		コンビニエンスストア図書等取次事業		43
		図書館利用推進事業		44
		(2) 生涯にわたる読書活動の推進	「南極・北極から地球の未来を考えてみよう」開催事業[新規]	44
			図書資料収集・整理・保存事業	45
		(4) 子どもの読書活動の推進	子どもの読書活動推進事業	46
			第4次所沢市子どもの読書活動推進計画策定事業[新規]	46
		4 ふるさと所沢の魅力を高めます	(1) 文化財の保存・活用・調査	所沢市文化財保存活用地域計画作成事業[新規]
	歴史的建造物整備活用事業			47
	土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査事業			48
	滝の城跡整備事業			48
	文化財公開活用事業			48
	(2) 伝統芸能の維持発展		郷土の民俗芸能支援事業	49
			所沢市文化財保存活用地域計画作成事業[新規]	50
	(3) 地域の文化財の掘り起こし		文化財保護普及啓発事業	50
			ふるさと研究活動事業	51
	(4) ふるさと研究の推進		三ヶ島葎子資料室運営事業	51
			資(史)料の収集・整理・保存・活用事業	52

基本方針	基本目標	主要施策	令和5年度の主要事業（太字は重点事業）	頁	
3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくりまします	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます	(1) 家庭教育への支援	家庭教育推進事業	5 3	
		(2) 放課後の居場所づくり	放課後支援事業	5 4	
		(3) 青少年教育の推進	子ども会育成事業	5 5	
	所沢こどもルネサンス開催支援事業		5 5		
	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます	(1) 教師力・組織力の向上	資質向上事業	5 6	
			学校支援訪問事業	5 7	
			学校法律相談事業	5 7	
		(2) 特色ある学校づくりの推進	コミュニティ・スクール導入事業[新規]	5 8	
			特色ある学校づくり支援事業	5 8	
		(3) 危機管理体制・学校安全の充実	安全・安心な学校と地域づくり推進事業	5 9	
		(4) 学校・家庭・地域の連携推進	「学び創造アクティブ PLUS」学力向上推進事業	6 0	
			学校評議員活用事務	6 0	
		3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます	(1) ICT 環境の整備	ホームページ作成システム導入事業[新規]	6 1
				小中学校校務用コンピュータ等更新事業[新規]	6 1
	学級数増加に伴う ICT 環境整備事業			6 1	
	デジタル教科書更新事業（コンテンツ配信サービス導入）			6 1	
	(2) 学校環境の整備・適正化		学校施設長寿命化改修事業（公共施設7校） （環境推進事業の一環）[新規]	6 2	
			学校施設太陽光発電設備設置事業	6 2	
			小中学校 LED 化整備事業	6 3	
			小中学校校舎照明 LED 化事業[新規]	6 3	
			学校トイレ改修事業	6 3	
			中学校校舎内部改修（木質化）事業	6 3	
			小学校施設整備事業	6 3	
			中学校施設整備事業	6 3	
	学校施設修繕・改修事業		6 3		
	(3) スポーツ活動の支援と環境整備		公共施設予約システム等更新事業[新規]	6 4	
	(4) 社会教育施設の環境整備		所沢市立所沢図書館本館照明 LED 化整備事業[新規]	6 5	
			公民館施設整備事業（新所沢東公民館バリアフリー化改修工事）[新規]	6 5	
			公民館施設整備事業	6 5	
			小手指公民館太陽光発電設備設置事業	6 6	
公民館施設整備事業（新所沢東公民館自動昇降機設置）			6 6		
公共施設予約システム等更新事業[新規]	6 6				
(5) 就学にかかる経済的支援	就学援助事業	6 7			
(6) 多様なニーズに対応した教育機会の提供	所沢市部活動推進事業（運動部・文化部）[新規]	6 8			
	教育課題に対応した学力向上推進事業	6 8			

5 学識経験者の意見

点検評価にあたり、客観性・透明性の確保という観点から、外部評価者として学識経験者3名からご意見・評価をいただきました。概要については、次のとおりです。

(1) 各施策に対する評価について

1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます

1-1-(1)「確かな学力の育成」

「トコロんのびのび塾」算数基礎学力向上プロジェクト事業では、今後に向けて指導者を集められるか。集めるのが困難であれば、今後は状況により開催数とのバランスを考える必要があるのではないかと。

1-1-(2)「伝統・文化の尊重とグローバル化に対応した教育の推進」

コロナ明けでお祭りが復活し、地域の伝統に触れる機会が増えることに期待する。幼少期からの地域との関わりの積み重ねが将来グローバルな社会の中で活かされるのではないかと。

1-1-(3)「情報教育の推進」

GIGAスクールのタブレット配布により、黒板だけで表せない見せ方や直感的にわかることが増えてくるので、教員のサポート体制が求められる。学校内でのサポートが難しいのであれば、教育センターや西部教育事務所、教科書の出版社を活用するのも良いのではないかと。

今はクローズな世界ではなく、つながる時代になっており、ICTセキュリティーは子ども（保護者）にも最低限のリテラシー（適切な理解、解釈、分析する）を持ち、これからは保護者も便利なものとどう付き合うか賢さが求められる。

AIは文章の中に普通に出てくるのが当たり前の時代になってくる。まずは教職員へのAI研修が必要である。

1-1-(4)「キャリア教育の推進」

「中学生社会体験チャレンジ事業」は、学校では見られない生徒の一面が見られるので良い事業である。子どもの進路決定にも役立つので大事にしていき、やっただけではなく、結果発表の場を設けて、子どもたちがどう感じたか、何を得たのかりサーチして次につなげるのが重要である。

1-2-(3)「体験活動の推進」

「特色のある学校づくり支援事業」では、各学校の特色を活かしており、今後も地域との連携を模索しながら続けてほしい。

1-2-(6)「相談体制の充実」

所沢市は県内でも相談体制は充実している。今後は就学相談など保護者の視点に立った相談を更に手厚くして行ってほしい。

1-3-(1)「学校保健の充実」

「園児・児童・生徒健康診断推進事業」では、子どもの成長と発達には差があるので、状況により配慮が必要である。適切な環境で医師会と学校との信頼関係を構築することが重要であり、学校保健の多様化に目を配ることが必要となる。

1-3-(2)「学校給食・食育の充実」

学校給食が無償で提供されることで残菜の増減は今後どう変化するのか。無償化しても残菜を減らして行ってほしい。

1-3-(4)「体力の向上」

「地域力活用運動好きな子ども育成事業」のうち、小学生持久走大会は参加者が少ないため、今後も続けていくのか検討が必要ではないか。大会開催の意義を鑑み、例えば、ゴールボールとコラボして体験できるようにするなど新しい事業、参加しやすい事業を企画してみてもどうか。

会場も場所によっては参加しにくいこともあるので、地元で集まってできる他の場所も検討してはどうか。

2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます

2-1-(1)「学習機会の充実」

「トコロん自習室開設事業」では、利用者が少ないので、工夫が必要ではないか。

働いている保護者が実施時間帯（午後5時～8時）に生涯学習推進センターまで連れてこられるのかといった問題もある。

2-1-(2)「学習活動の支援」

生涯学習情報紙「翔びたつひろば」は、公民館の一元化に当たり地域色を出してほしい。また、本紙に掲載のイベントの申し込み方法は、電話だけでなくショートメールも可としたことだが、インターネットや電子申請なども検討してはどうか。

「生涯学習まちづくり出前講座」は、まちづくり機能が強化されるので社会教育的な要素が自治会・町内会に展開されることに期待する。今後は、公民館から外（自治会・町内会、コミュニティセンター）に踏み込んでどうか。

2-1-(3) 「学びの成果の活用」

「生涯学習ボランティア人材バンク運営事業」において、学んだことを活かす場をつくることは社会教育で重要であり、社会の中で自分が生かされている実感があることが大事である。

2-1-(4) 「人権教育の推進」

人権教育では、不登校やいじめの体験談、保護者の声など同じ境遇の人を集めてボトムアップ型の歩み寄りも考えてはどうか。また、共有だけではなく、発信することで生活の中に溶け込んでいくことを意識してほしい。

2-1-(5) 「公民館事業の充実」

外に踏み出すことで地域課題が具体的に見えてくる。持続可能な公民館を考えてほしい。

2-2-(1) 「市民の健康・体力づくりの推進」

「所沢シティマラソン大会」では5年ぶりに観光物産展を開催したが、これまでと場所が異なったためか利用者は多くなかった。来年度は開催方法を工夫してはどうか。

2-2-(2) 「競技会場の確保や交流機会の充実」

「ゴールボール」は、誰でもできるスポーツなので、小・中学校でもゴールボール大会を開催するなど気軽に参加できるようにしてはどうか。

2-2-(3) 「スポーツに触れる機会の充実」

「イタリア選手団事前キャンプ受入れ事業」に関連し、国際交流の一環として、姉妹都市（ディケーター市、安養市など）ともキャンプをやってみてはどうか。

2-3-(1) 「図書館サービスの向上」

「コンビニエンスストア図書等取次事業」は、今後図書離れが進んでいくことを踏まえ、図書館でも現状分析しながら、その中で店舗増やす、又は減らすなら費用対効果を考えながら進めてほしい。「わざわざ図書館に行かなくても本が借りられる」というPRをしてほしいと考える。

まずは図書館に足を運んでもらうアプローチが必要で、「行かない人をどう行かせるか」「いかにして来てもらうか」を考え、図書館イベントを計画してほしい。

2-3-(2)「生涯にわたる読書活動の推進」

講演会「南極・北極から地球の未来を考えてみよう」では、募集人数(40人)を超えた申込みがあったが、実際の参加者は26人であった。参加したくてもできなかった人の存在を忘れず、申込み後の欠席者対策を考えてほしい。

2-4-(1)「文化財の保存・活用・調査」

文化的な史料が消失してしまう危機感が強い。年1回のお祭り屋台の組み立て方や飾り方なども継承が難しくなるなら動画で残すなど、後世に伝わるような保存のしかたを考えほしい。新しい人たちが所沢に移り住み、自分たちのコミュニティや文化を育む中で所沢に定着すると、その土地にはどのような歴史があるのかという疑問や愛着を感じる。その答えになる場所が博物館や図書館のレファレンスサービスであり、これらが充実していると定着を促していくことにつながる。

3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります

3-1-(1)「家庭教育への支援」

家庭教育は保護者も一緒に学ぶ姿勢が必要で、経験者の生の声を聞く機会があっても良い。不登校の子どもが学ぶ、つながりに力点を置いて普及して行ってほしい。

3-1-(3)「青少年教育の推進」

「こどもルネサンス」では、様々な事業を実施しており、スタッフの尽力には頭が下がる思いである。今後は子ども会育成会と連携して、地域との関わりも考えてみてはどうか。

3-2-(1)「教師力・組織力の向上」

「資質向上事業」では、教職員に合った研修を考えてほしい。中核市移行を見据えて市独自の研修も行うようである。今年あたりが「替え時」ではないか。

3-2-(2)「特色ある学校づくりの推進」

コミュニティ・スクールのポイントは「熟議」と「(今までやってきた)協働活動」にある。子どもたちのために何ができるかをきっかけに熟議(議論を深めること)を通じて学校や地域、とりわけ保護者との相互理解や合意形成が必要である。

これまで特色ある学校づくり、学校面談、地域の祭りなどをやってきており、学校と地域の今の課題として、校長先生はじめ議論を誘導し、合意形成を図ることが重要である。

はじめから多くの成果を上げることは難しいので、繰り返し熟議を重ねることで地域課題や保護者の置かれている状況がお互いに理解されると良い。校長先生だけでなく、いろいろなキャストを織り交ぜながら、子どもたちの未来に「とって」、そして地域の将来に「とって」を共通理解に、それぞれの学校が進めていってほしい。併せて、現在のモデル校の状況を分析してほしい。

3-3-(1)「ICT環境の整備」

ICTの活用は、子どもの「できる・できない」の差が大きいため、フォロー体制をしっかり構築してほしい。

3-3-(2)「学校環境の整備・適正化」

「学校施設長寿命化改修事業」は、まずは日々の巡回（屋上、各階ベランダ、手すりなど）や点検（ひび割れなど）をしっかり行い、安全な環境を整備してほしい。

学校のトイレでは、和式を使えない子どもが自宅まで我慢してしまう事案が発生している。学校では階ごとに洋式トイレがあるので、洋式のところを使ってもらうなど、整備されるまでは学校で工夫してほしい。

3-3-(3)「スポーツ活動の支援と環境整備」

「公共施設予約システム等更新事業」では、システムを使えない人のことも考え、その場に来て申込みをする方法をしばらく並行することも必要と考える。

3-3-(6)「多様なニーズに対応した教育機会の提供」

「部活動の地域移行」は、人材づくりを含めて容易ではない。指導と楽しむのは異なり、指導は責任を伴い荷が重い。少子化の進行に伴い、学校ごとに「うちは野球」「うちはサッカー」といった状況が顕在化してくるのではないかと。学校の特色の一つとして引き受ける地域が学校をどこまで理解しているかが求められる。

この事業を進めていくには、教員が地域の人にならないと難しい。教員の過重労働も考えながら勤務時間までは教員、勤務時間外は地域の指導者として考えてみてはどうか。

「教育課題に対応した学力向上推進事業」における「ネイティブサポーター」は、幼稚園や保育園、こども園に通う子ども達をどう考えていくのか。幼少期にサポートしておかないと小・中学校で影響が出てくる。要望があれば（私立にも）サポーターを派遣し幼少のときからコミュニケーションの改善を図ると、将来多様なニーズへの対応につながるのと考えてほしい。

(2) 今後のあり方について

「今までやってきたことを見直し、一方で継承する、一方で廃止するといった工夫がこれから求められる」

今までどおり同じことをするのも疑問であり、このまま同じことができる時代ではない。市の取組もこれまでと同じでいいのか、その中で取組の効果の有無を検証しながら「残す、なくす」あるいは事業の一本化を考えていく過程で様々な取組を共に進める中で楽しみや喜び(幸福)を覚え、協調的幸福感としてウェルビーイング(Well-being)が広く展開されることを期待したい。

コロナ禍を挟んで地域のお祭りや文化財など事業の継承が難しくなっていれば、保存のしかたをあわせて考えてほしい。

また、教育現場にはA Iの進展など刻々と変化する状況下で対応する力やコミュニティ・スクールをはじめ地域を含め一丸となったトータルの力で取り組むことがこれから求められるので、そのための教職員の研修などサポート体制も必要である。

引き続き、教育委員会をはじめ市役所の関係機関が一丸となって、子どもたちに寄り添いながら所沢市の教育をより一層推進されることを期待したい。

ウェルビーイング(Well-being)・・・身体的・精神的・社会的に良い状態

秋草学園短期大学准教授
元所沢市立中学校長
所沢市社会教育委員

伊澤 永修
内野 正行
小沢 貞泰

6 点検評価表

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

主要施策	(1) 確かな学力の育成	所管課	学校教育課、教育センター
------	--------------	-----	--------------

施策の目標

学力向上推進事業「所沢市学び創造アクティブ PLUS」では、「子どもたちは、誰もができるようになりたいと願っている」という能動的学習者観に立ち、学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの確かな学力や主体的に学ぶ態度を育成します。

学習支援員・特別支援教育支援員等*を配置し、一人ひとりにきめ細かな支援を行います。

児童生徒が学習内容を深く理解し、必要な資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を図ります。

○1人1台のタブレット端末配付に伴い、オンラインドリルを活用していくこととなり、市独自の「学びノート」については、必要に応じてホームページからダウンロードする方法にて、学校・家庭における効果的な活用を促進します。

全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、及び市独自の学力調査等の結果を分析して指導に反映させます。

*学習支援員…少数指導など個に応じた指導の充実を図り、児童・生徒の確かな学力を育むとともに、豊かな心やたくましく生きるための健康や体力を育成するため、原則として教員資格を有する人材を市内全小・中学校に配置する職員。

*特別支援教育支援員…様々な障害のある児童生徒の学校生活を支援し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図るため、市内全小・中学校の通常の学級に配置する職員。

施策の内容と今後の方向

学習支援員は、学習でつまづいている子どもたちへの支援を行うために全小中学校に1人ずつ配置しました。特別支援教育支援員は、子どもたちの特別なニーズに対応しながら支援を行いました。

市独自の学力調査「所沢市ステップアップ調査」、全国や県の学力・学習状況調査等を実施し、児童生徒の学力を把握し、授業改善に活かしました。

幼稚園や保育園等から小学校へ滑らかな接続が図れるよう、基本的な生活習慣について連携を図りました。

学力向上支援講師配置校では、児童生徒へのよりきめ細かな指導が可能となりました。その効果について、埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果と合わせ、今後も引き続き確認していきます。

全校に対して、「学び創造アクティブ PLUS」(令和6年度からは「トコロん学力向上プロジェクト事業」)を踏まえた授業の実施状況調査を実施し、成果と課題を踏まえ、より一層の充実を図っていきます。

令和5年度から開始した「トコロん のびのび塾」は多くの児童の参加があり、参加した児童からも、「わかるようになった」、「また参加したい」などの声がありました。本事業は児童の学力向上に繋がっていると考えられることから、今後は複数の会場で実施していきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	「学び創造アクティブ PLUS」学力向上推進事業 p.60にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	1,881千円
評価	<p>「メディアとの付き合い方」「家読(うちどく)」「家庭での役割」の取組推進の一環として「ウィークデイチャレンジ」シートを活用し、その結果をHPで公開しました。また、全校に対して進捗状況調査を実施し、結果を校・園長会等で周知しました。</p> <p>今年度は、学び創造アクティブ PLUSの研究を20校(小学校10校、中学校10校)に委託し、授業研究、課題解決のために特化した研究を計画どおりに進めることができました。研究委託校は、実践報告会を開催することができました。</p>				

事業名	「トコロんのびのび塾」算数基礎学力向上プロジェクト事業 [新規]	所管課	学校教育課	決算額	457 千円
-----	------------------------------------	-----	-------	-----	--------

地域の教育力を活用し、所沢市の子どもたちの学力向上及び学習意欲の向上を図るため、夏季休業中に実施しました。小学校算数の基礎的な計算力の向上を目指し、教育センターにて開催しました。

評価	夏季休業中に 4 日間実施しました。延べ 350 人以上の児童が参加するとともに、延べ 150 人以上のボランティアに参加していただきました。児童からは「できた」「わかった」という達成感が味わえたという感想が多くありました。				
----	--	--	--	--	--

事業名	学習支援員配置事業	所管課	学校教育課	決算額	55,791 千円
-----	-----------	-----	-------	-----	-----------

学習支援員を全小中学校に 1 人ずつ配置し、教科指導での児童生徒の一人ひとりの学習状況に応じた支援を行いました。

評価	個に応じた学習支援により、学力向上に貢献しました。				
----	---------------------------	--	--	--	--

事業名	学力向上支援講師配置事業	所管課	学校教育課	決算額	26,785 千円
-----	--------------	-----	-------	-----	-----------

学校の課題解決や積極的な教育活動の展開のために教員を必要とする学校に、学力向上支援講師を 12 人（小学校 4 人、中学校 8 人）配置しました。配置校においては、担任等が児童生徒と向き合う時間や教材研究・授業準備を行う時間が増えるとともに、児童生徒に対し多面的な視点から個に応じた支援を行うなどきめ細かな指導が可能になり、学力向上に貢献しました。

評価	県費負担教職員と連携して、教職員の負担軽減や児童生徒へのきめ細かな指導の実施を推進し、学力向上に貢献しました。				
----	---	--	--	--	--

事業名	教育課題に対応した学力向上推進事業 p.14、p.68 にも掲載	所管課	教育センター	決算額	214 千円
-----	-------------------------------------	-----	--------	-----	--------

「学び創造アクティブ PLUS 研究校支援研修」「教科等指導力向上研修」「豊かな心育成研修」では、合わせて 10 校に大学教授等の指導者を派遣し、校内研究を支援しました。令和 5 年度は制限がなくなり、集合する形で研修会を実施できました。また、大学教授や文部科学省の教科調査官を教育センターに招へいし、教職員の授業力を高めることができました。

評価	15 研修会を開催し、600 人の参加者がありました。満足度は、「大変よかった」「ややよかった」の回答は、99.6%でした。				
----	--	--	--	--	--

事業名	確かな学力定着事業	所管課	学校教育課	決算額	16,043 千円
-----	-----------	-----	-------	-----	-----------

市独自の学力調査（ステップアップ調査）を 3 回実施し、その結果を分析することにより、授業改善に活かし、生徒への指導に役立てました。

評価	3 年生に 3 回、1・2 年生に 1 回実施し、学力調査等の結果を授業改善に活かしたり、生徒一人一人の評価資料を得て、学習指導や進路指導に役立てたりすることができました。				
----	--	--	--	--	--

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます		
主要施策	(2) 伝統・文化の尊重とグローバル化に対応した教育の推進	所管課	教育センター、学校教育課 文化財保護課

施策の目標	<p>世界の平和と発展に貢献する市民を育成するために、日本及び諸外国の伝統や文化の違い等についての理解を深めます。</p> <p>ふるさと所沢の歴史、自然、文化等に対する理解を深めることを通して、生まれ育った地域に愛着をもち、社会の一員として貢献していこうとする態度を養います。</p> <p>TEA-Plan の成果に基づき、小中学校 7 年間で英語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、英語教育を通して、変化の激しいこれからの時代をたくましく生き抜く児童生徒の育成を目指します。</p>
--------------	--

施策の内容と今後の方向	<p>TEA-Plan 研修会を通して、小中学校の外国語担当教職員の資質向上を推進します。</p> <p>小学校外国語支援員や英語指導助手(AET)*を派遣し、外国語活動・外国語科授業の支援や、英語教育の充実及び国際理解教育の推進を図りました。今後も、小中学校 7 年間の英語教育の充実を図ります。</p> <p>*AET・・・小中学校の外国語活動・外国語科の授業における補助を行っている職員。採用にあたり、「大学の学士号を有する者」や「教育の在留資格を有する者」など一定の要件があります。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	小学校外国語活動推進事業	所管課	教育センター	決算額	12,267 千円
評価	<p>小学校に外国語支援員 16 人を派遣し、小学校の外国語活動・外国語科授業を支援しました。また、小学校教員や外国語支援員を対象とした研修会「英語サロン」を実施し、力量の向上を図りました。</p> <p>英語サロンの内容を講義型から授業参観型に変更し、外国語支援員の望ましい支援について学ぶ実践的なものとししました。研修会満足度「大変よかった」「ややよかった」が 100%でした。</p>				

事業名	教育課題に対応した学力向上推進事業 p.13、p.68 にも掲載	所管課	教育センター	決算額	80,861 千円
評価	<p>小中学校に英語指導助手 15 人を派遣し、英語教育の充実及び国際理解教育の推進を図りました。</p> <p>中学校外国語科の学習指導はもとより、小学校の外国語科・外国語活動の充実に貢献しました。また、英語指導助手が母国での経験を伝えることで国際理解教育の推進に貢献しました。</p>				

事業名	ふるさと研究活動事業 p.51 にも掲載	所管課	文化財保護課	決算額	8,782 千円
評価	<p>「ふるさと所沢」への愛着・理解を深めるため、次の事業を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示、企画展示(夏季企画展「関東大震災百年～その時、所沢は～」、冬季企画展「所沢の養蚕 - 蚕・繭・糸・絹が語る昔と今 - 」) 来場者 延べ 2,055 人 ・ふるさと研究講座探究編「クローズアップ所沢」(全 4 回シリーズ) 参加者 : 延べ 189 人 ・ところざわ星空フェスティバル 参加者 : 約 800 人 ・体験学習会「狭山丘陵・ちょっと地層を見て歩き」参加者 : 18 人 ・市民学芸員活動 参加者 延べ 664 人 ・小中学校初任者研修への講師派遣、出張授業、体験学習等 参加者 延べ 299 人 				

評 価	他課や民間企業等も連携し、生涯学習推進センターにおいて「ところざわ星空フェスティバル」を5年ぶりに開催し、約800人の来場者にふるさと所沢の自然や歴史文化について伝え、体験してもらうことができました。企画展や体験学習会も開催し、評価指標としているふるさと研究活動にかかる延利用者数（展示見学者・講座参加者・閲覧学習室利用者の延総数）は5,344人（前年度4,534人）でした。前年度より多くの市民に「ふるさと所沢」の魅力を伝えることができました。
-----	---

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

主要施策	(3) 情報教育の推進	所管課	学校教育課、教育センター
------	-------------	-----	--------------

施策の目標

児童生徒の情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能、問題解決・探究における情報活用能力（プログラミング的思考・情報モラル・セキュリティを含む）を育成します。

ICT を適切に活用した学習活動の充実を図るために、教員を対象とした研修・研究を推進します。

施策の内容と今後の方向

○GIGA スクール構想^{*1}の推進のために、ICT 機器を効果的に活用した授業実践に向けた研修の充実を図ります。

○液晶ディスプレイ等の ICT 機器や、デジタル教科書、オンラインドリル、授業支援ソフトの効果的な活用と各学校での好事例の共有を進め、ICT 教育の充実を図ります。

○所沢市教育情報セキュリティポリシーの改定、情報モラル研修会やセキュリティ監査の実施等による情報セキュリティに対する意識の向上を図ります。

○生成 AI の活用については、情報の真偽を確かめることを習慣化し、情報活用能力を育む教育活動を充実させ、AI 時代に必要な資質・能力の向上を図ります。

^{*1}「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する」

主な事業の実施状況・評価

事業名	I C T 推進事業	所管課	教育センター	決算額	426,181 千円
-----	------------	-----	--------	-----	------------

GIGA スクール構想に伴って導入した ICT 機器や各種アプリ・ソフト等に関する ICT 活用研修会、ICT 教育推進研修会、情報モラル研修会等を実施しました。また、所沢市教育情報セキュリティポリシーを一部改訂しました。セキュリティポリシーを遵守した情報管理に関する校内研修の支援・情報セキュリティ研修会・セキュリティ監査を行うことで、教職員の情報セキュリティに対する意識の向上を図りました。

評価

ICT 活用研修会は、授業で活用可能なアプリ等を実際に操作して、その有用性を学ぶことができました。ICT 教育推進研修会では、各校の実践や悩みを共有することで、各校に共通する課題を明確にししながら、ICT 活用推進について議論することができました。情報モラル研修会では、大学教授による講演を行ったことで、ICT 活用に伴う危険性と、情報モラル教育の重要性についての認識を市内で共有することができました。

事業名	I C T 支援員配置事業	所管課	教育センター	決算額	65,736 千円
-----	---------------	-----	--------	-----	-----------

GIGA スクール構想に伴って整備した、児童生徒の 1 人 1 台端末（Chromebook）をはじめとする ICT 機器や各種アプリ・ソフト等について、授業における効果的な活用を推進するため、ICT 支援員を導入しました。

市内小中学校 47 校に対して、専門知識をもった ICT 支援員を 8 人配置し、1 日を 1 回とし、月に 3 回の訪問を行いました。

評価

調査の結果、「ICT 機器を使って指導できる教員の割合」が約 82%になり、学校において教員同士の学び合いができるまでに高めることができました。

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

主要施策	(4) キャリア教育の推進	所管課	学校教育課
-------------	----------------------	-----	-------

施策の目標

将来働くことについて、関心・意欲がもてるよう、小中学生の発達段階に応じた体系的なキャリア教育*を進めます。近隣にある事業所等で職場体験を行うことで、地域社会の仕組みを勉強しながら職業観・勤労観を育成します。

中学校の進路指導を充実させ、生徒自身が主体的に将来の生き方を考え、進路の選択、設計ができるようにします。

* キャリア教育…一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

施策の内容と今後の方向

小学校における「勤労生産体験」や「社会奉仕体験」では、子どもたちが地域で働く方と触れ合うことで、地域とのつながりや働くことの大切さを体感しました。

中学校における職場体験学習は、市内全中学校で、1・2年生を中心に実施されています。学校では得られない体験をすることで生徒の職業観、勤労観、さらには、自己理解を深めるよい機会となりました。生徒からは、「事前の学習、職場体験、事後のまとめや体験新聞の作成を通して、職業をより身近に捉え、将来の自分について考えを深めることができた」との声がありました。

中学校における職場体験学習は、時期や日数など各校独自の取組となっています。体験先の事業所等への礼状の送付などの予算の確保、職場体験の受入先の継続的な確保をしていきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	中学生社会体験チャレンジ事業	所管課	学校教育課	決算額	140千円
中学生社会体験チャレンジ事業は、市内の企業に中学生が赴き、3日程度の職場体験活動を行うものです。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、多くの事業所での職場体験受入れが再開しました。					
評価	社会体験チャレンジ事業の再開により、多くの学校でキャリア教育が充実し、生徒の職業観、勤労観の醸成につながりました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

主要施策	(5) 特別支援教育の推進	所管課	学校教育課
------	---------------	-----	-------

施策の目標	<p>障害のある子と障害のない子が共に学ぶことを追求するとともに、教育的ニーズに応じた多様な学びの場を整備し、インクルーシブ教育システム*の充実を図ります。</p> <p>長期的な視点で一貫した支援が行えるよう、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用を推進します。</p> <p>* インクルーシブ教育システム…障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み。個別の教育的ニーズに応えるため、通常の学級、通級による指導、特別支援学級等、連続性のある多様な学びの場を用意しておくことが必要とされている。</p>
-------	---

施策の内容と今後の方向	<p>「支援籍学習*」の実施促進と、交流及び共同学習の機会を頻繁に設けることで、心のバリアフリーに取り組んでいます。</p> <p>「特別支援学級」の設置を計画的に行い、より多くの児童生徒が居住地の学校に通うことができるよう準備を進め、令和5年度に特別支援学級を小学校に2校に新設しました。これにより、令和5年度は、小学校全32校のうち29校、中学校全15校のうち13校への設置が完了しました。</p> <p>「通級指導教室」における指導の充実により、対象児童生徒の支援に成果を上げています。</p> <p>発達障害・情緒障害通級指導教室 … 小学校2校7教室、中学校2校3教室を設置</p> <p>難聴・言語障害通級指導教室 … 小学校2校4教室を設置</p> <p>各学校が作成した「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を把握し、必要に応じ指導・助言を行いました。</p> <p>「特別支援教育支援員」を全小中学校の通常の学級に、また、「心身障害児介助員*」をすべての特別支援学級設置校にそれぞれ配置し、支援体制を整備しました。あわせて、校内の特別支援教育コーディネーターと連携しながら、配慮を要する児童生徒の学習支援や日常生活上の介助などを行いました。</p> <p>特別支援教育支援員及び心身障害児介助員は、専門的な知識技能が必要となることから、資質向上を図るために任用後も定期的に研修を行っています。春と夏に研修会を実施しました。</p> <p>特別支援学級の計画的な新設・増設を推進するにあたり、「心身障害児介助員」の増員に伴う予算並びに人材の確保、あわせて各学校の特別支援教育コーディネーターや就学相談担当者、特別支援教育支援員等の資質向上を図る研修会を行い、特別支援教育の指導者育成を計画的に進めていきます。</p> <p>特別支援学級の計画的な新設・増設を推進するとともに、各学校と連携し、支援籍学習や交流及び共同学習をさらに充実させていく必要があります。令和6年度も特別支援学級を荒幡小と西富小に新設します。</p> <p>* 支援籍学習…通常の学級・特別支援学級・特別支援学校のそれぞれに在籍する児童生徒が、必要に応じて、特定の学習を他の学校や学級で行う形態。</p> <p>* 心身障害児介助員…児童生徒の学習支援と日常生活上の個別の支援を行うため、特別支援学級設置校に配置する職員。</p>
-------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	特別支援教育支援員等配置事業	所管課	学校教育課	決算額	191,544千円
評価	<p>全小中学校に「特別支援教育支援員」を配置し、通常の学級における配慮を要する児童生徒に対する学習支援や日常生活上の介助などの支援を行いました。特別支援学級設置校には「心身障害児介助員」を配置し、特別支援学級における配慮を要する児童生徒に対する学習支援や日常生活上の介助などの支援を行いました。</p> <p>学校及び保護者から、個々の児童生徒に対応したきめ細かな支援が行われているという感想があり、人的支援が有効に活用されています。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

主要施策	(6) 幼児教育の推進	所管課	学校教育課
-------------	--------------------	-----	-------

施策の目標	<p>幼児期は人間形成の基礎が培われる時期であるため、遊びや生活を充実させ、調和のとれた心と体を育成します。子どもたちが健やかに成長できるように、「子育ての目安『3つのめばえ』[*]」等を活用し、保護者の子育ての意識を高めます。</p> <p>幼児教育振興協議会を通して、就学前教育を支援するとともに、幼児教育から学校教育への滑らかな接続を図るため、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校で、子どもたちの交流する機会を充実させ、保育・授業参観とその後の研究協議等で顔の見える連携を進めます。</p> <p><small>* 子育ての目安「3つのめばえ」…埼玉県教育委員会で示している小学校入学までに身につけてほしいこと。 具体的には、健康で安全な生活をする等の「生活」、人とかかわる力を身につける等の「他者との関係」、好奇心や探究心をもっているものにかかわる等の「興味・関心」の3つです。家庭向けの広報リーフレットが発行されている。</small></p>
--------------	--

施策の内容と今後の方向	<p>市内5ブロックで構成される所沢市幼児教育振興協議会において、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校教職員が、学校での教育活動の状況や園での様子の情報交換を行いました。</p> <p>幼稚園・保育園・認定こども園と小学校とで互いに子どもの様子を参観する機会を設定し、課題を共有したことで、参加した園と学校との連携が進みました。今後は、子ども支援センター（マーガレット・ルピナス）等との連携など、充実させる必要があります。</p> <p>「学び創造アクティブPLUS」学力向上推進事業に幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携を位置づけ、幼児教育振興協議会の協力を得て作成した「所沢市小1スタートカリキュラム」の周知とより一層の活用を図っていきます。</p> <p>所沢第二幼稚園については、平成21年の所沢市立幼稚園運営協議会による「2園廃止が望ましい。」とする答申を受けました。令和5年所沢市議会第4回定例会において「所沢市立学校設置条例の一部改正」の議決を得て、令和7年3月31日をもって廃止となることが決まりました。なお、所沢幼稚園は、平成23年3月に廃止しています。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

	<p>連携が必要な幼保こども園89園と小学校32校が滑らかな接続のため、情報交換会を行いました。園では子どもたちが元気に入学できるように指導を行い、小学校では得た情報からスムーズに小学校生活のスタートが切れるための準備を行いました。</p> <p>所沢第二幼稚園については、野菜の栽培や昆虫の飼育など自然物の実体験による活動や、体操など心身の調和的発達を促す活動を行うとともに、地域の自治会行事や、保護者サークルによる行事への参加により、情操教育に繋がりました。また、近隣の公立保育園2園と連携し、同年代の園児との交流を継続的に行いました。</p>
評価	<p>就学予定の児童に関する情報交換を行ったことで、幼児教育から学校教育への円滑な接続につながりました。今後も幼保こども園と小学校が協働して連携を進めていく必要があります。</p>

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

主要施策	(1) 道徳教育の推進	所管課	学校教育課、教育センター
------	-------------	-----	--------------

施策の目標	<p>個人が直面する様々な状況の中で、主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな心を育むため、家庭と連携しながら、学校の教育活動全体を通して道徳教育に取り組みます。</p> <p>道徳的実践力とともに人権意識を高め、他者の痛みにも共感できる豊かな人間性や、いじめを許さない心を育てます。</p> <p>道徳科の授業を要とした道徳教育において、「生命の尊さ」が実感できる教育を進めます。</p>
-------	--

施策の内容と今後の方向	<p>各小中学校において、道徳科の授業を通して道徳教育の充実が図られるよう研修会の内容を工夫・改善していきます。</p> <p>学校人権教育啓発資料発行事業では、各校から人権に関する作文・標語を募集し、編集委員会で選定された作品をまとめた人権文集「ともだち」を発行・配布しました。また、小中学校における人権教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性を醸成することに努めました。</p> <p>家庭、地域と連携しながら、道徳教育のより一層の推進を図ります。「生命の尊さ」が実感できる教育については、「心のエネルギープロジェクト」を進めています。目的は「子どもたちが未来を主体的に生き抜く力を育てるよう、全ての教師が自己肯定感をベースとした授業力や学級経営力を高め、学校の組織力の向上を図る」ことです。市内全ての教職員や保護者、地域が共通理解のもと、児童生徒の心のエネルギーを一層高めてまいります。</p>
-------------	--

主な事業の実施状況・評価

事業名	豊かな心育成支援事業	所管課	教育センター	決算額	51千円
授業や学校生活等、教育活動全体を通して子どもたちの豊かな心を育成できるよう道徳教育の動向や具体的な指導の在り方についての研修会を実施しました。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳科充実のための研修会では、大学教授を招へいし、道徳科の基礎・基本について学び、課題について共有及び改善ができるよう協議を行うことによって、道徳授業の認識を深めました。 人権教育研修会は、ワークショップ形式で実施し、演習を交えた体験的な学びと理論的な学びを取り入れた研修を実施しました。 				
評価	<p>授業の様子を別室に配信することによって定員を増やすなど開催方法を工夫し、参加者が計150人になりました。研修会の満足度は、「大変よかった」「ややよかった」を合わせて99.4%でした。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

主要施策	(2) 環境教育の推進	所管課	学校教育課、教育センター 保健給食課
------	-------------	-----	-----------------------

施策の目標

市長部局と連携し、持続可能な社会の担い手を育むための環境教育（ESD^{*1}の視点）を行い、自然との調和を大切にすることを育てます。

児童生徒、教職員の環境意識を高め、環境に配慮した学校づくりを通して、持続可能な社会づくりの担い手を育みます。特に優れた取組を行った学校を「地球にやさしい学校大賞^{*2}」として表彰します。

^{*1} ESD… Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳される。現代社会の問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。つまり、ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育。

^{*2} 地球にやさしい学校大賞…市と教育委員会が連携して、特に優れた環境活動を行った学校を表彰する取組。

施策の内容と今後の方向

○「地球にやさしい学校づくり」では、マチごとエコタウン推進課と連携し、地球にやさしい学校大賞を決定したり、子どもサミットを実施したりして環境教育を推進しました。

『「はじめよう ECO 生活！」エコファミリー宣言』等への参加を呼びかけ、自然との共生やエコライフについての意識の向上を図りました。

○教育センターにおいて「ESD 調査研究協議会」を開催し、持続可能な社会の担い手を育む学校づくりについての研究を行い、学校を会場とした研修会を実施しました。今後も「所沢市の ESD」の普及に努めます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	地球にやさしい学校づくり推進事業	所管課	学校教育課	決算額	0千円
	学校では、資源回収、みどりのカーテン、節水、エコキャップ回収、食品ロス削減などの取組を実施しました。				
評価	子どもたちは、各学校の取組を通して、環境保全や資源保護への知識や経験が増えました。子どもたちの意識が高まるよう、継続した取組を行っていきます。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

主要施策	(3) 体験活動の推進	所管課	学校教育課
------	-------------	-----	-------

施策の目標

地域の人・自然・文化とのふれあいなど様々な体験活動を通して、豊かな人間性や社会性、そして「ふるさと所沢」を愛する心を育みます。

家庭、地域などと連携し、すべての児童生徒が自然体験、職業体験、社会奉仕体験や世代間交流など、様々な体験活動の充実を図る「埼玉の子ども70万人体験活動^{*}」を推進します。

学校単位に農園を設置し、心身ともに発達段階にある児童生徒が農業体験活動を通して、生命や自然、環境や食べ物などに対する理解を深めるとともに、情操や生きる力を身につけることをねらいとした「学校ファーム」の取組を推進します。

^{*} 埼玉の子ども70万人体験活動…すべての児童生徒が自然体験、職業体験、勤労生産体験、社会奉仕体験や世代間交流を行うなど、家庭・地域・企業・NPOなどと連携して、発達段階に応じた様々な体験活動を進める埼玉県の取組。

施策の内容と今後の方向

「みどりの学校ファーム」を全小中学校で実施しています。学校ファームでは、地域の方々や専門的な知識・技能を有する方の協力を得ながら、野菜作りや稲作などが行われました。農業体験を通じて、生産者への感謝の気持ちが育つとともに、「自分たちが苦勞して作った野菜を大切に食べたい」という心が育ちました。

集団宿泊活動等の校外学習では、自然の中での、日常生活では体験することのできない環境において、自然や文化などに親しむとともに、集団生活や公衆道徳などについての望ましい体験を積めるよう、各校の実態に合わせて行っています。

各校での体験活動をより一層の充実を図るために、様々な取組を共有していきます。

郷土の芸能・文化に触れる体験活動の充実に向けて、地域人材との交流による体験活動の充実を推進していきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	特色ある学校づくり支援事業 p.58にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	9,396千円
	所沢第二幼稚園及び各小中学校が、創意工夫を凝らし、地域の人材や環境の特性を活かした、体験的な教育活動を実施しました。地域の特性を活かした活動として、「生活科や総合的な学習の時間等における地域の伝統芸能や地場産業の体験的な学習」「環境美化のための保護者、地域と連携した花壇への植栽」「地域の行事や清掃活動への参加」等が行われました。				
評価	子どもたちの豊かな心や主体的に学び自ら問題を解決する資質・能力を養うための活動を実施することができました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます		
主要施策	(4) 読書活動の推進	所管課	学校教育課、教育総務課 所沢図書館

施策の目標

読書は子どもたちの言語感覚、想像力、知的好奇心等を高め、生活を豊かなものにしてくれます。学校図書館の活用をはじめ、地域のボランティアによる読み聞かせや朝読書等により、子どもたちが本を身近なものとして感じることができる環境の充実に努めます。また、家族ぐるみで読書を楽しむ家読（うちどく）を推進します。

司書教諭をはじめとした学校図書館を担当する教員を補助する学校司書を配置し、学校図書館を円滑に管理・運営するとともに、学校図書館の図書の実質を図ります。

施策の内容と今後の方向

学校司書を小中学校全校（ ）に配置し、研修会を開催することで図書の整理や図書館活動についての充実を図っています。（松井小学校図書館を除く）。

学校司書や図書ボランティアの支援を受け、学校図書館の書架の見出しづくりや飾り付け、図書の展示や修繕、児童生徒への読み聞かせ等、読書活動を推進しました。

松井小学校図書館の利用拡大について検討を行い、平成 29 年度から市内に勤務する幼児教育・学校教育にかかる教職員等（幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、中学校及び児童館の職員）に開放しています。

学び創造アクティブ PLUS において、家庭学習の習慣をすすめる中で、毎月 23 日を「家読（うちどく）の日」として、読書の充実を図りました。

学校図書館が備えるべき蔵書数の目安として学校図書館図書標準*がありますが、この図書標準を満たしている学校は、令和 6 年 3 月現在、17 校にとどまっています。学校図書館図書標準を満たす学校が増えるよう、予算配分の見直し等で蔵書数の増加と更新に力を入れ、充実した蔵書を目指します。

* 学校図書館図書標準（充足率）…公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準冊数のことで、平成 5 年に文部科学省が定めたもの。

主な事業の実施状況・評価

事業名	学校司書配置事業		所管課	学校教育課	決算額	37,005 千円
令和 2 年度に完了した全校配置の効果を検証し、1 校に 1 司書を配置するか検証が必要となります。						
評価	児童・生徒数の減少に伴い、利用人数及び貸出冊数に、減少が見られます。中学校では、第 2 次教育振興基本計画における令和 5 年度の目標（小学校 24 冊、中学校 13 冊）に達していない状況です。図書の配架や掲示物の工夫、図書だよりの発行等、児童生徒にとって利用しやすい学校図書館の整備・充実を図っていく必要があります。					
	年度	校種	利用延べ人数	貸出延べ冊数	在籍児童生徒一人当たり貸出冊数	
	令和 4 年度	小学校	443,730	447,718	27.9	
		中学校	92,896	115,451	14.9	
	令和 5 年度	小学校	430,390	451,164	28.4	
		中学校	102,286	78,059	10.2	

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます			
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます			
主要施策	(5) 生徒指導の充実		所管課	学校教育課、教育センター
施策の目標 児童生徒一人ひとりに対する理解に基づいた生徒指導を推進するため、研修等の充実を図り、教職員の資質向上に取り組みます。 「所沢市いじめ防止基本方針」と各学校の実態に応じた基本方針にもとづく組織的な校内指導体制を確立するとともに、ネットトラブル等、複雑化・多様化するいじめの未然防止や解消を図る取組を支援します。				
施策の内容と今後の方向 本市では、過去、生徒の命に関わる重大な事案が発生しており、教育委員会としても非常に重い課題として受け止めています。このような痛ましい事案を二度と起こさないという強い決意の下、引き続き、以下の取組を行っていきます。 「いじめ防止対策推進法」に基づき、「所沢市いじめ防止基本方針」と「所沢市いじめ対応マニュアル」を策定しています。児童生徒が安心してSOSを発することのできる学校の実現とともに、援助を求めることが苦手な児童生徒の声なき声に耳を傾け、微かなサインに目を配るよう、各学校に徹底するとともに、いじめ防止等の対策を実効的に行う機関として、「所沢市いじめ問題対策委員会」に市内の現状を報告し、いじめ防止やいじめ発生時の対応について意見をいただき、取組に活かしています。また、生徒指導主任研修会や生徒指導・教育相談訪問の実施により教職員の資質向上や校内指導体制の支援を継続していきます。 教育相談体制の充実については、市費のスクールカウンセラー4人を全中学校に配置しました（1人あたり3～4校兼務）。また、必要に応じて小学校へ派遣し心理の立場から児童生徒を支援しました。令和6年度は5人に増員し、全中学校と5つの小学校に配置、必要に応じて他の小学校へ派遣することでより充実した支援体制を構築していきます。また、心のふれあい相談員（32人）を全小中学校に配置し、学校の教員、県費・市費のスクールカウンセラー、心のふれあい相談員が、連携して相談活動を行うことで、子どもの発するSOSを迅速に受け止め、問題の未然防止、早期発見、早期対応を充実させています。				
主な事業の実施状況・評価				
事業名	健やか輝き支援事業 p.27、p.31にも掲載	所管課	学校教育課	決算額 61,840千円
健やか輝き支援室（心のふれあい相談員、安全安心対策推進員、生徒指導・いじめ問題対策員、心理士、いじめホットライン）では、生徒指導や心の悩み、発達障害等に関する相談、延べ29,963件に対応しました。 生徒指導・いじめ問題対策員による非行防止、薬物乱用防止、ネットトラブル等の教室を29回実施しました。 心のふれあい相談員15人を全中学校に、17人を全小学校に配置し、小中学校が連携して相談活動ができるようにしました。 「所沢市いじめ問題対策委員会」を開催し、本市の現状及びいじめ問題発生時の対応について協議しました。 早稲田大学と連携し、児童生徒が抱える学校不応や発達障害などの困難さに対する学校の理解を深め、適切な支援につなげるため、大学院生（12人）を学校に派遣し、学校における教育支援において着実な成果を上げました。				
評価	児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修や市費のスクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図ることができました。			

事業名	安全・安心な学校と地域づくり推進事業 p.59にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	12,849 千円
<p>「安全・安心な学校と地域づくり推進本部」(行政機関・警察・地域関係団体・中学校・高等学校等により組織する連絡協議会)の本部会議を令和5年度は1回開催しました。</p> <p>本事業の大きな4本の柱として、「いじめ撲滅」「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」を掲げています。例年、推進支部ごとに、登下校の見守り、校外パトロール、防犯講習会、あいさつ運動等の活動を行っています。</p> <p>事業開始から18年が経過し、「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」の3つの事業については本市として地域への浸透や当初の目標を達成したため、今後の学校地域ごとの課題に沿った内容で学校ごとに継続したり、学校運営協議会制度(*コミュニティ・スクール...学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進するための「学校運営協議会」が設置された学校)の取組の一つとするなどして、移行してまいります。</p> <p>【児童生徒の地域行事への参加人数】 令和5年度 延べ 17,597人 (令和4年度 延べ 10,238人)</p> <p>【推進員の活動状況】学校訪問・地域での支援 令和5年度 延べ 549回 (令和4年度 延べ 491回)</p> <p>【支部会議の開催状況】 令和5年度 27回 (令和4年度 28回)</p>					
評価	<p>経験豊富な推進員(様々な課題対処の経験のある元校長)が各学校を巡回するなど、きめ細かな支援ができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます	
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます	
主要施策	(6) 相談体制の充実	所管課 教育センター、学校教育課
施策の目標	<p>すべての子どもたちが個性や能力を伸ばし、健やかに成長できるよう、家庭との面接相談やスクールソーシャルワーカー^{*1}による訪問、学校への教育相談アドバイザーの派遣等を通し、課題がある児童生徒やその保護者及び教職員の解決力を高める支援を行い、必要に応じて関係機関につなげる相談活動を推進します。</p> <p>不登校の未然防止のために巡回や訪問による出向く支援や、教育支援センター「クwest」における不登校児童生徒への個別活動・集団活動等の社会的自立に向けた支援を強化します。</p> <p>教職員を対象に、児童生徒理解を通し自己肯定感を高め、児童生徒の生き抜く力を育てる研修や研究、校内の相談体制の構築に必要な知識・理解を深める研修を行います。</p> <p>「児童生徒の様々な困難・ストレスへの対処方法を身につけるための教育」を進めます。</p> <p>子どもの成長段階に応じた様々な課題（いじめ・非行問題行動・不登校・虐待等）に対し、学校や教育委員会の各機関が、専門家（心理士・警察 OB・元校長等）を含むチームを編成し、必要に応じて市長部局や他の専門機関等とも連携を図り、解決に向けた取組を進めます。</p> <p>障害の特性や教育的ニーズ、保護者の意向を踏まえた就学相談の充実を図ります。</p> <p>スクールカウンセラー^{*2}や「心のふれあい相談員」を配置し、学校の相談体制を整備します。</p> <p>教育や心理を学ぶ大学生を小中学校に派遣し、学校不適応や発達障害等の課題を抱える児童生徒を支援します。</p> <p>^{*1} スクールソーシャルワーカー…教育と福祉の両面に関して専門的な知識・技術を有するとともに、児童が置かれた様々な環境への働き掛けや、関係機関等とのネットワークを活用するなどにより、課題を抱える児童等に支援を行う専門家。県から所沢市に3人配置されている。</p> <p>^{*2} スクールカウンセラー…臨床心理に関して高度な知識・経験を有し、いじめ・不登校等、生徒の心の相談に当たるとともに教職員や保護者への助言・援助を行う専門家。</p>	
施策の内容と今後の方向	<p>本市では以前に生徒の命に関わる重大な事案が発生しており、教育委員会としても非常に重い課題として受け止めています。このような事案を二度と起こさないという強い決意の下、子どもの成長段階に応じた様々な問題に対して、各機関が連携しながら次の取組を行いました。今後も、学校教育課と教育センターが連携・協力して、保護者や学校が相談しやすい環境を整えます。</p> <p>子どもたちが未来を主体的に生き抜く力を育めるよう全ての教師が自己肯定感をベースとした授業力や学級経営力を高め、学校の組織力の向上を図るといった目的の下、「心のエネルギープロジェクト」を進めています。各学校が自校の児童生徒の実情に応じて、意図的・計画的に心のエネルギープロジェクトを推進します。6・7月を「心のエネルギープロジェクト月間」とし、各校でメッセージと映像資料（「今、あなたがここにいること」「かけがえのない あなただから」の2本）を活用し、児童生徒や保護者に意識の向上を図ります。メッセージは市内全児童生徒とその保護者に配布し、映像資料は市内全小中学校で教職員及び児童生徒が視聴しました。心のエネルギープロジェクトを一層効果的に推進するため、ゲートキーパー[*]養成研修会において、心理や医療の視点から自殺予防や自傷行為等への対応の仕方を学びます。また、フレッシュマンセミナーやミドルリーダー研修員研修等において「児童生徒の自己肯定感を高める授業づくりや学級づくり」をテーマに研修します。各学校における「学級経営ガイド」や「ストレスマネジメントプログラム」の活用も進めます。引き続き、市内全ての教職員や保護者、地域が共通理解のもと、児童生徒の心のエネルギーを一層高めてまいります。</p> <p>家庭環境に起因する相談ケースが増え、学校からスクールソーシャルワーカーの依頼が増加傾向にあります。また、高等学校に進学したものの通学できていない生徒や、引きこもり状態の生徒などの相談も増えています。適切な時期に必要な関係機関と連携する相談活動を進めていきます。</p>	

* ゲートキーパー…命の危険を示すサインに気付き適切な対応を図ることができる者

主な事業の実施状況・評価

事業名	スクールカウンセラー学校派遣事業	所管課	学校教育課	決算額	15,837千円
<p>市費のスクールカウンセラー4人を、市内全15中学校を中心に派遣しました(1人あたり3~4校兼務)。市費のスクールカウンセラーが行った相談件数は、延べ6,831件です。</p> <p>直接学校において相談業務を行い、埼玉県より派遣されているスクールカウンセラーや心のふれあい相談員と児童生徒の情報を共有し、子どもの発するSOSを迅速かつ的確に受け止めるよう努めました。</p>					
評価	児童生徒の心に寄り添う対応に努め、問題の未然防止、早期発見、早期対応につながっています。				

事業名	教育相談アドバイザー支援事業	所管課	教育センター	決算額	220千円
<p>本事業は、複雑ないじめ問題や自殺防止など学校の抱える課題を解決するため、令和元年度に立ち上げました。今年度も、市内の小中学校に支援をすることができました。具体的には心理の専門家が学校巡回(スクリーニング)し、児童生徒の様子から個に応じた対応、学校の組織的な対応について、直接教職員にアドバイスをしました。また、福祉の専門家が、教育センター主催のケース会議において、家族支援や生涯を見通した支援についてアドバイスをしました。個々の児童生徒等に応じた的確な支援方針・方法を見出すことができました。</p>					
評価	学校巡回を実施した学校から「詳細なアドバイスをいただいたことで、教師による児童生徒への理解が深まり、個別の声かけや指導方法を工夫することができるようになった」などの感想が寄せられ、児童生徒が安心して学校生活を送るための支援につながりました。				

事業名	健やか輝き支援事業 p.24、p.31にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	61,840千円
<p>健やか輝き支援室(心のふれあい相談員、安全安心対策推進員、生徒指導・いじめ問題対策員、心理士、いじめホットライン)では、生徒指導や心の悩み、発達障害等に関する相談、延べ29,963件に対応しました。</p> <p>生徒指導・いじめ問題対策員による非行防止、薬物乱用防止、ネットトラブル等の教室を29回実施しました。</p> <p>心のふれあい相談員15人を全中学校に、17人を全小学校に配置し、小中学校が連携して相談活動ができるようにしました。</p> <p>「所沢市いじめ問題対策委員会」を開催し、本市の現状及びいじめ問題発生時の対応について協議しました。</p> <p>早稲田大学と連携し、児童生徒が抱える学校不応適や発達障害などの困難さに対する学校の理解を深め、適切な支援につなげるため、大学院生(12人)を学校に派遣し、学校における教育支援において着実な成果を上げました。</p>					
評価	児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修や市費のスクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図ることができました。				

事業名	教育相談事業	所管課	教育センター	決算額	40,151 千円
<p>令和5年度の相談ケースも、これまでと同様に不登校と性格・行動に関する相談が大半を占めました。学校に出向き学校生活の様子を観察したり、家庭や学校と支援方法を相談したりするなど、個に応じた相談活動を着実に進めることができました。</p> <p>教育支援センター（教育センター内クwest）では、自分らしくいられる居場所の提供、対人関係の中での自己表現、チャレンジしていくための安全基地という3つを重点に、個々の状態に合わせた活動プログラムに取り組みました。学校や担任との連携を適宜行い、児童生徒の不安を軽減するため、支援員が登校に同行する等、社会的自立に向けたチャレンジを後押ししました。</p>					
評価	<p>教育相談件数は483件（前年度は548件）です。不登校につきましては、約93%が好転しました。教育支援センターには、86人（前年度は85人）が入室し、個に応じたきめ細やかな支援を行うことができました。</p>				

事業名	就学相談事業	所管課	学校教育課	決算額	8,369 千円
<p>保護者からの申込343件（前年度は240件）について、就学支援委員が児童生徒や保護者との面談及び観察、知能検査等の実施を通して、適切な就学先を決定しました。</p> <p>就学支援委員会の判断と保護者の意向が同じケースは、通常学級と判断されたケースでは98%、特別支援学級判断のケースでは75%、特別支援学校判断のケースでは85%でした。就学相談は、継続的に時間をかけて行われていくものであり、保護者の同意が得られないケースでも、個に応じた現状を分析しながらその児童生徒にふさわしい学びの場を判断しています。</p>					
評価	<p>保護者からの申込があった就学相談について、個に応じた就学先の決定を行うことができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

主要施策	(1) 学校保健の充実	所管課	保健給食課
-------------	--------------------	-----	-------

施策の目標

心身の健やかな成長の土台となる「早寝・早起き・朝ごはん」等の取組を、機会を捉えて家庭に働きかけます。地域の関係機関や医師等と連携しながら、学校保健計画に基づき学校保健活動を推進し、学校環境衛生の維持と児童生徒の保健教育・保健管理の充実に努めます。

喫煙・飲酒・薬物乱用等を防止するための教育や性に関する指導を、家庭・地域と連携しながら、児童生徒の発達の段階に応じて効果的に行います。

子どもたちが健康で安全な学校生活を送ることができるよう、学校における食物アレルギー対応の充実に努めます。

施策の内容と今後の方向

児童生徒等のプライバシーに配慮した環境整備を行いながら健康診断を実施しました。今後も学校医等と連携しながら児童生徒等の健康診断を実施していきます。

○「性に関する指導」について、各小中学校において作成する「性に関する指導全体計画」を基に年間計画を作成し、計画的・組織的に進めました。今後も発達の段階を踏まえて効果的に実施していきます。

○経口補水液や熱中症指数計等を活用して、熱中症事故防止のために適切な配慮を講じました。今後も、学校へのFAXや校内放送等を活用して熱中症予防の注意喚起に努め、学校における暑さ対策を進めていきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	園児・児童・生徒健康診断推進事業	所管課	保健給食課	決算額	80,792千円
小中学校・幼稚園において、内科・歯科等の健康診断や尿検査などの検査を実施しました。また、児童が健康な状態で学校生活を開始できるよう就学前年に就学时健康診断を行いました。					
評価	学校医等と連携して健康診断等を実施し、児童生徒等の健康の保持増進を図りました。				

事業名	児童生徒食物アレルギー対応事業	所管課	保健給食課	決算額	60千円
学校において迅速かつ適切に食物アレルギーに対応するため、校内研修を実施しました。また、「所沢市立小中学校食物アレルギー対応検討委員会」を開催して課題解決や情報共有を行い、対応の充実に努めました。					
評価	各校において情報共有や対策を進め、重大事故の発生防止に寄与しました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

主要施策	(2) 学校給食・食育の充実	所管課	保健給食課
-------------	-----------------------	-----	-------

施策の目標

安心・安全な学校給食を安定的に提供するため、老朽化した学校給食センターの再整備及び学校給食施設の衛生管理の徹底、調理機器等の整備を進めます。

地場産物を積極的に給食の献立に取り入れたり、子どもたちが学校ファームで栽培した野菜を給食に使用したりすることで、地域への関心、生産者や作物への感謝の気持ちを養います。

栄養教諭・栄養士を中心に学校全体で、食と健康に関する指導に取り組むとともに、家庭と連携して望ましい食習慣や基本的生活習慣を身につける取組を進めます。

残食率の低下を目指し、献立や調理の工夫をするとともに、栄養教諭・栄養士が教職員と連携し、給食時間の指導の充実に努めます。

施策の内容と今後の方向

廃場となっていた第2学校給食センター跡地を活用し、老朽化した第3学校給食センターに代わる新たな学校給食センターを建設して、令和6年4月から給食提供を開始しました。

○今後は地場産物に加え、有機農業で生産された野菜を積極的に給食の献立に取り入れ、生産者と子どもたちが、給食時間に会食等を行い、交流を深めていく予定です。

主な事業の実施状況・評価

事業名	学校給食センター再整備事業	所管課	保健給食課	決算額	2,271,651千円
学校給食センター再整備事業について、新学校給食センターの建設工事が完了し、令和6年1月末に引き渡しを受けました。					
評価	当初の予定通りに工事が完了し、引き渡しを受けることができました。				

事業名	第1学校給食センター受水槽外改修事業	所管課	保健給食課	決算額	54,400千円
「所沢市公共施設長寿命化計画」に基づく短期予防保全計画に従い、施設の長寿命化を図るものです。令和5年度は、既存廃水処理施設の撤去工事などを行いました。					
評価	当初の予定どおりに工事は進捗しています。				

事業名	学校給食食育推進事業	所管課	保健給食課	決算額	174千円
「学校給食センターサマーフェスタ」や、新しく開設された第2学校給食センターでの「内覧会」、「開所式」では、たくさんの親子連れや地域の方々にお越しいただき、日ごろ入ることができない学校給食センターの調理場内の施設・調理器具見学等を行いました。令和5年度から同時開催となった「給食展・食育フォーラム」へも、多くの方のお越しいただき、家庭、地域の方々に、学校給食への理解と関心を深めていただけるよい機会となりました。					
評価	学校給食センターサマーフェスタは693人、食育フォーラムと給食展は、1,337人、内覧会は616人と多くの方が来場し、学校給食への理解が深められました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

主要施策	(3) 安全・防災教育の推進	所管課	学校教育課
------	----------------	-----	-------

施策の目標

学校や家庭、地域の実態に即した指導計画の作成と組織的な安全教育の推進を図ります。

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、安全教育の授業改善を行います。

児童生徒自身に安全を守るための能力を身につけさせる安全教育の充実と、児童生徒の生活の場である学校の安全管理体制の充実を図ります。

施策の内容と今後の方向

各学校で、学校や家庭、地域の実態に即した学校安全計画を作成し、組織的・計画的に安全教育を行いました。安全教育の授業改善について、より体験的（消防局との連携）で必然性の高い（予告なしの防災訓練等）学習を行うなどの工夫を引き続き行います。

主な事業の実施状況・評価

事業名	健やか輝き支援事業 p.24、p.27にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	61,840千円
評価	<p>健やか輝き支援室（心のふれあい相談員、安全安心対策推進員、生徒指導・いじめ問題対策員、心理士、いじめホットライン）では、生徒指導や心の悩み、発達障害等に関する相談、延べ29,963件に対応しました。生徒指導・いじめ問題対策員による非行防止、薬物乱用防止、ネットトラブル等の教室を29回実施しました。心のふれあい相談員15人を全中学校に、17人を全小学校に配置し、小中学校が連携して相談活動ができるようにしました。</p> <p>「所沢市いじめ問題対策委員会」を開催し、本市の現状及びいじめ問題発生時の対応について協議しました。早稲田大学と連携し、児童生徒が抱える学校不適應や発達障害などの困難さに対する学校の理解を深め、適切な支援につなげるため、大学院生（12人）を学校に派遣し、学校における教育支援において着実な成果を上げました。</p> <p>児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修や市費スクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図ることができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

主要施策	(4) 体力の向上	所管課	スポーツ振興課
-------------	------------------	-----	---------

施策の目標	<p>体力テストの分析結果を子どもと保護者にフィードバックすることで、個々の課題を明確にし、目標を持たせることで、子どもたちの運動意欲を高めます。</p> <p>スポーツ大会や教室等を実施するとともに、休み時間や放課後等に外遊びができる環境づくりに努めます。体を動かすことの楽しさを感じるにより、体力向上を目指すとともに運動好きな児童生徒の育成に努めます。運動部活動の安定した運営や生徒の技術力向上に取り組みます。</p>
--------------	---

施策の内容と今後の方向	<p>新体力テストを実施し、中学校体力調査の集計分析は委託により行いました。令和5年度は総合評価5ランク（A～E）のうち、上位3ランク（A～C）の割合が小学校は微減、中学校は微増しました。令和5年度は、所沢市児童生徒体力向上推進委員会で作成したお手本動画を活用し、正しく記録の伸びやすい計測の方法を周知し、市内の測定の方法を向上できるよう周知しました。今後も、子どもの体力にどのように影響したのか現状把握をするとともに、中長期的に体力向上を推進するため、体力向上推進委員と連携し、運動好きな子どもを育てることで子どもの体力を向上させるよう取り組みます。</p> <p>令和5年度も航空公園運動場にて親子ティーボール教室を行い、広い人工芝のグラウンドで快適に運動を行うことができました。今後も、運動に興味がない子も保護者と共にスポーツに親しめる機会を作り、各種事業の参加者数増加を図るため、実施形態の工夫及び周知の方法や回数の検討をします。</p> <p>運動部活動については、中体連と連携し、充実した活動ができましたが、今後は、部活動の地域移行について検討し、生徒にとってより充実した環境の整備に取り組みます。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	地域力活用運動好きな子ども育成事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	233千円
	<p>児童生徒が運動する楽しさや喜びを感じられる機会づくりと、子どもを運動好きにし、体力向上を図るため、地域のスポーツ関係団体と連携して、所沢市のスポーツ資源や特色を活かした次の事業を行いました。</p> <p>【実施結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子手打ち野球&ティーボール教室（航空記念公園運動場）親子合計 61組 141人 ・所沢市小学生持久走大会（航空記念公園）参加者 54人 ・埼玉プロンコスふれあいキャラバン 小学校3校 参加者 334人 ・埼玉西武ライオンズベースボールチャレンジ 小学校9校 参加者 773人 				
評価	<p>持久走大会の参加者数が減っており、次年度はより魅力的な大会になるよう工夫します。他の行事は、コロナによる制限も緩和され、児童の体力向上や多くの児童にとって運動が楽しいと実感できる各種の事業を計画どおり実施することができました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます				
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます				
主要施策	(1) 学習機会の充実	所管課	社会教育課		
施策の目標	<p>市民の学習ニーズの多様化・高度化に対応し、誰もが気軽に参加できる講座や、資格取得・キャリアアップを目指す講座などの企画立案に努めてまいります。</p> <p>多様な主体（産・官・学・民）と連携・協力を図り、市民の生涯学習の機会の創出や講座内容の充実に取り組みます。</p>				
施策の内容と今後の方向	<p>令和5年度は短期大学や高校などを会場に市民向けの公開講座を行いました。令和6年度は、引き続き近隣の教育機関と連携しながら多種多様な学習機会を提供するとともに、様々な世代の学習意欲に配慮した事業内容や学習情報の提供を進めることで、参加者層の拡大を目指します。</p> <p>○令和5年度は自習室をはじめとする学習スペースの開設に取り組みました。令和6年度は学習スペースをより充実させることで、子どもから大人まであらゆる世代が学習できる環境づくりに取り組みます。</p>				
主な事業の実施状況・評価					
事業名	学習講座等開催事業	所管課	社会教育課	決算額	4,065千円
市民大学	<p>市民の誰もが参加でき、市民と行政が協働で企画・運営する学習の場で、現代的課題をテーマに学びを深めるとともに、地域の仲間づくりを進め、各人の自立した地域参加を応援します。</p> <p>29期2年次グループワーク 回数：27回 受講者数：66人 延べ受講者数：1,930人（企画委員含む）</p> <p>30期1年次総合学習 回数：24回 受講者数：69人 延べ受講者数：1,858人（企画委員含む）</p> <p>官学連携共催セミナー</p> <p>高度化・多様化する市民の学習意欲に応えるため、市内及び近隣の大学・専門学校と所沢市教育委員会の連携により、専門的かつ学術的な知識を学べるセミナーを開催しました。</p> <p>令和5年度実施：秋草学園短期大学（3回）早稲田大学、防衛医科大学、東京家政大学、西武学園医学技術専門学校（2回）</p>				
評価	秋草学園短期大学と連携した市民公開講座を大学キャンパスで行い、生涯学習推進センター以外の会場で市民が専門的な知識を学べる機会を提供しました。				
事業名	ところん自習室開設事業〔新規〕	所管課	社会教育課	決算額	639千円
放課後に子どもたちが安心して学習できる場所を提供するために、生涯学習推進センター内に見守りスタッフを配置した自習室を開設します。	<p>【令和5年度の取組】</p> <p>開設日時：毎週月・水・金曜日 午後5時～8時</p> <p>夏期（8月の平日）及び12月9日～3月9日の毎土曜日 午前9時～午後5時</p> <p>開設日数：143日 延べ利用者数：558人</p>				
評価	近隣在住の中高生を中心に子どもたちが安心して学習できる居場所を提供することができました。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

主要施策	(2) 学習活動の支援	所管課	社会教育課
------	-------------	-----	-------

施策の目標	<p>市ホームページや生涯学習情報紙などの情報ツールを効果的に活用し、生涯学習情報を積極的に発信することで、市民の学習活動を支援します。</p> <p>市民の学習活動を多方面からサポートする事業を実施するとともに、相談体制の充実を図ります。</p> <p>市政全般について市職員が説明し市政に関する理解を深めてもらう「まちづくり出前講座」をはじめ、地域課題をテーマとした学習会を実施し、まちづくりにつながる生涯学習の推進に努めます。</p>
-------	--

施策の内容と今後の方向	<p>令和5年度は生涯学習情報紙を発行し、市民の自主的な活動を支援するとともに、市の生涯学習に関連する事業の情報を提供しました。令和6年度はさらに紙面を充実させ、積極的な広報に努めます。</p> <p>令和5年度はIT相談を実施し、市民同士で学習活動を支え合いました。令和6年度は高齢者等への福祉的な支援としての効果も期待できるため継続的に実施します。</p> <p>令和5年度は市民の市政への理解を深めるための「まちづくり出前講座」を実施しました。令和6年度も地域課題に沿ったテーマで実施し協働によるまちづくりにつなげます。</p>
-------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	生涯学習情報紙発行事業	所管課	社会教育課	決算額	21,474千円
評価	<p>生涯学習に関する情報提供と発信を目的に、生涯学習情報紙「翔びたつひろば」を広報ところざわへの折込により毎月全戸配布しました。総発行部数は、2,112,370部でした。</p> <p>「翔びたつひろば」掲載のイベント申し込み方法について、従来の電話だけでなくショートメールも可とし、市民の利便性を高めました。</p>				

事業名	IT相談事業	所管課	社会教育課	決算額	421千円
評価	<p>パソコン操作に不慣れな高齢者等のデジタルデバインド(情報格差)解消のため基本的な操作等を支援する事業として定着しており、パソコンとスマートフォンとの連携などの相談にも対応しています。</p> <p>令和5年度は、第1~4火曜・金曜日(午前・午後)に全182回実施し、相談者数は472人でした。</p> <p>パソコン操作についての相談業務はリピーターも多く一定の評価を得ています。今後、さらなるデジタルデバインド解消に向けて実施方法等を検討する必要があります。</p>				

事業名	生涯学習まちづくり出前講座事業	所管課	社会教育課	決算額	177千円
評価	<p>市民が市政への理解を深め、市民と行政の協働による「生涯学習によるまちづくり」につなげられるよう「生涯学習まちづくり出前講座」を実施しています。</p> <p>令和5年度は、申込件数が46件で41回開催し、参加者総数は1,064人でした。</p> <p>全83の講座メニューのうち、リクエストが多かったのは「備えあれば...『所沢市の防災・減災対策』(危機管理室)6件と「所沢市の高齢者福祉」(高齢者支援課)6件です。</p> <p>参加者数は令和4年度より127人増加しました。申込団体へのアンケート結果では、開催された41件のうち「講座の内容は期待やニーズに沿うものだった」が21件で、「もう少し違う内容を期待していた」が1件で、市民の期待やニーズに沿ったプログラムを提供できました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

主要施策	(3) 学びの成果の活用	所管課	社会教育課
------	--------------	-----	-------

施策の目標	<p>自分の持っている様々な知識や技術を役立てたい人を登録し、学習をしたい市民に紹介する「ボランティア人材バンク」制度の周知と更なる活用の促進を図ります。</p> <p>市民の様々な学習活動が学びの絆となり広がっていくための場の創出として、市民の学習活動の紹介、各種交流事業の促進、ボランティア活動の推進や社会教育施設の運用の充実に努めます。</p>
-------	---

施策の内容と今後の方向	<p>○令和5年度は「ボランティア人材バンク」の活用により、個人の学習により習得した知識や技術を地域に還元し役立てたい人とそれを活用したい人をつないできました。令和6年度も引き続きHPの内容の充実やメニュー等の定期的な更新に努めます。</p> <p>令和5年度は「ボランティア人材バンク」のPRイベントを実施し、市民の自主的な活動による、地域で活躍する人材などを紹介してきました。令和6年度もPRイベントを実施し、地域の歴史・文化を伝える人材を支援します。</p>
-------------	--

主な事業の実施状況・評価

事業名	生涯学習ボランティア人材バンク運営事業	所管課	社会教育課	決算額	235千円
評価	<p>人材バンク制度の周知や知識を必要とする人との出会いの場として、市役所ロビーを会場にして「人材バンクフェア」を開催しました。実行委員会を組織してフェアを開催する過程で、市民講師が知恵を出し合い交流を深めることにより、講師への招聘が増えることのほか、講師同士がコラボレーションしたイベントが行われるなどの相乗効果が生まれています。</p> <p>【令和5年度の取組】</p> <p>事業のPRとしてインターネットを活用し、1分間の講師PR動画を公開しました。</p> <p>人材バンクフェア体験会の回数を午前・午後の各1回2時間ずつから午前・午後の各2回1時間ずつにすることで、複数の体験会に参加できるようになりました。登録93件、紹介件数39件。</p> <p>体験会の回数を変更することで、より多くの方が気軽に複数の体験会に参加できるようになり、制度のPRにつなげることができました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます		
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます		
主要施策	(4) 人権教育の推進	所管課	社会教育課、学校教育課

施策の目標	<p>個人の尊厳が守られ、誰もがいきいきと暮らせる明るい地域社会の実現を目指し、あらゆる世代が人権問題を考え理解し、相手の立場を考えて行動できるよう、関係機関とも連携した学習の場を充実し、一人ひとりの人権意識の高揚を図ります。</p> <p>市内小中学校の教育活動を通じて、一人ひとりを大切にする教育を推進するとともに、基本的人権を尊重し、人権問題を理解し解決しようとする子どもの育成を目指します。</p>
施策の内容と今後の方向	<p>「いじめ防止対策推進法」をもとに平成26年2月28日に策定した「所沢市いじめ防止基本方針」を令和元年12月に一部改定しました。このことを受け、小中学校における各学校のいじめ防止基本方針の改定も行い、実効性を高めるための具体的な取組となるようにしていきます。</p> <p>埼玉県で行っている11月のいじめ撲滅強調月間では、市内小中学校がそれぞれ考えた、いじめを根絶していくための啓発活動について取り組み、人権教育の推進を図っています。</p> <p>いじめを未然に防止するためには心の教育を一層充実させる必要があり、道徳教育の充実を図ることによって、児童生徒に他者の痛みを共有できる資質や生命を尊重する心を引き続き育てていきます。</p>

主な事業の実施状況・評価

事業名	人権教育推進事業	所管課	社会教育課	決算額	575千円
評価	<p>所沢市人権教育推進協議会と連携して、人権意識啓発のため、人権教育講座の開催、リーフレットの配布、人権啓発映像資料の貸出などを実施しました。</p> <p>【人権教育講座】家庭教育学級人権教育合同講座（計4回実施 参加人数合計262人） 人権教育ブロック別研修会（計4回実施 参加人数合計122人） 人権教育指導者養成講座（計3回実施 参加人数合計69人）</p> <p>【啓発DVD貸出】小中学校での人権教育等（延べ1,849人視聴）</p> <p>例年どおり、人権教育講座・研修会を開催しましたが、コロナ禍による行動制限も解除されたこともあり、人権教育講座全体として昨年度を35人上回る参加人数となりました。</p>				

事業名	学校人権教育啓発資料発行事業	所管課	学校教育課	決算額	247千円
評価	<p>各校から人権に関する作文を募集し、編集委員会で選定された作品をまとめた人権文集「ともだち」を発行・配布することで、小中学校における人権教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性を醸成することに努めました。この人権文集「ともだち」は小中学校の全学級に配布し、児童生徒が日頃から手に取ることができるようにするとともに、道徳の学習等でも活用しました。また、市内の公共施設で閲覧に供して、広く市民への啓発も行いました。</p> <p>市内小中学校の各学級に人権文集を配布したことで、日常的に児童生徒が人権感覚を高めることができるようにしました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

主要施策	(5) 公民館事業の充実	所管課	社会教育課
-------------	---------------------	-----	-------

施策の目標	<p>市民のニーズを把握し、地域の中の学習拠点施設として、地域の様々な課題や健康・生活文化などの学習機会を提供します。</p> <p>市民が気軽に集える地域の居場所としての公民館を目指し、市民と協働で取り組みながら、人とのふれあいや学びを通してまちづくりに参加する人材を育成します。</p> <p>サークル活動等の市民の自主的な活動を支援するとともに、社会教育関係団体や関係機関とのネットワークづくりを推進し、学校・家庭・地域が連携した地域の教育力の向上を図ります。</p>
--------------	---

施策の内容と今後の方向	<p>○令和5年度は、各公民館合計で331件の主催事業を実施しました。例えば、子育て講座、子育てサロン等の家庭教育事業、健康体操教室等の健康づくり事業、夏休みや冬休みの小中学生体験事業等を実施しました。令和6年度も住民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくり・地域づくりに貢献する事業を行ってまいります。</p> <p>○令和5年度は、市民が気軽に集う事業や地域の居場所づくりの取組として、サロン事業や夏休み期間等の自習室スペースの開設を各公民館で実施しました。また、市民等と協働で企画・実施した事業数は、198件でした。令和6年度もサロン事業や自習室の開設等を実施してまいります。</p> <p>○令和5年度は、各館合計で1,456サークルが団体登録を行い、公民館祭りで作品展示や舞台発表を行いました。地域団体と連携・協働した事業や、公民館サークルを講師とした事業も実施しました。また、各館合計で延べ597,612人が公民館を利用しました。令和6年度もサークル活動を支援しながら、地域住民の学習意欲を高め、学習の成果が地域での実践に結びつけられることを目指します。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	公民館主催事業	所管課	社会教育課	決算額	5,707千円
評価	<p>公民館が社会教育を推進する拠点施設として中心的な役割を引き続き果たすようにすべての館で地区文化祭、体操教室や子育て講座等の主催事業を実施しました。</p> <p>【主催事業数】全館合計 331 事業</p> <p>昨年と同様に地区文化祭を全館で実施しました。また、主催事業は全館で昨年度より 36 事業多く実施できました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	2 誰もが、いつまでも ^{からだ} 身体を動かしたくなるマチをめざします

主要施策	(1) 市民の健康・体力づくりの推進	所管課	スポーツ振興課
-------------	---------------------------	-----	---------

施策の目標	<p>スポーツ大会・教室等について、生涯を通してスポーツ（軽運動、レクリエーション等含む）に親しむきっかけづくりとなるよう、市民ニーズを踏まえ、企画内容の充実に努め、子どもから高齢者まで障害のある人もない人も、ライフステージ等に応じたスポーツの楽しさを普及します。</p> <p>誰でも、どこでも手軽に行うことができる市独自の健康体操「とこしゃん体操」の普及に努めるなど、スポーツを通じた健康づくりを推進します。</p>
--------------	--

施策の内容と今後の方向	<p>第2次所沢市スポーツ推進計画の基本理念である「市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、^{からだ}身体を動かしたくなるマチ」を目指し、あらゆる世代が参加できる教室や大会を開催しました。令和6年度から第3次所沢市スポーツ推進計画に移行し、「市民の誰もが、スポーツにふれ、スポーツで笑顔があふれるマチ」を基本理念として、スポーツ情報の発信に努め、あらゆる世代がスポーツにふれる機会を増やします。</p> <p>高齢者向けの教室やとこしゃん体操の指導者養成を通じて「とこしゃん体操」を普及しています。今後も継続して、より多くの市民の健康づくりを推進します。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	所沢シティマラソン大会開催事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	8,000千円
評価	<p>第34回所沢シティマラソン大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、給水方法を従来の紙コップでの提供に戻し、5年ぶりに観光物産展を開催しました。</p> <p>前回大会に引き続き、チャレンジ部門も狭山湖堤防を走る眺望の良いコース設定とし、ドーム内の大型ビジョンにはコースを走るランナーの生中継映像を放映するなど、参加者や同伴のご家族にも楽しんでもらえる大会となりました。4,706人のエントリーに対し、記録計測をする部門に3,225人が出走したほか、記録計測なしのファミリーの部にも親子で大勢の参加がありました。観光物産展の規模の拡大、募集方法の多様化、計測方法の改善を検討します。</p>				

事業名	第3次所沢市スポーツ推進計画策定事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	618千円
評価	<p>令和元年度に策定した第2次所沢市スポーツ推進計画は、令和5年度に計画の最終年度を迎えることから、スポーツ基本法に基づき、新たに令和6年度からのスポーツ施策における理念や方向性を示し、体系的な行政運営を行っていくために次期計画を策定します。計画期間については、国、県の計画期間と同じく5年間とします。</p> <p>令和5年度は、当計画案のパブリックコメントを実施し、その結果（応募人数2人、意見総数8件）をホームページ等で公表しました。1月定例教育委員会会議で審議し承認された後、冊子版500部と概要版900部を作成し、市議会、関係部署・団体に配布するとともに、市のホームページに掲載し、市民体育館や各まちづくりセンター等に配架し、当計画を市民へ周知しています。</p>				

事業名	スポーツ教室開催事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	302千円
評価	<p>さわやか健康体操教室、手軽に健やか体操教室・・・、男性いつまでも元気体操教室・・・、健康体操指導者養成講座、健康体操指導者スキルアップ講座、健康体操指導者研修会、初心者小学生新体操教室を実施しました。【参加者数】令和3年度 3,915人・令和4年度 9,958人・令和5年度 7,975人</p> <p>コロナの5類移行後、参加者が増え、市民の体力づくりに寄与できました。若い世代の親を持つ</p>				

	初心者小学生新体操教室では申し込み方法を電子申請に変更したこともあり、参加者は、令和4年度12人に対し、令和5年度は53人に増加しました。
--	---

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	2 誰もが、いつまでも からだ を動かしたくなるまちをめざします

主要施策	(2) 競技会場の確保や交流機会の充実	所管課	スポーツ振興課
-------------	----------------------------	-----	---------

施策の目標

身近なスポーツ施設で、プロや実業団等の迫力あるプレーを観戦できる機会を増やし、市民のスポーツへの関心・意欲を高めます。

所沢市民体育館がゴールボール^{*1}のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設^{*2}に指定されたことから、国際競技力向上に資する活動を効果的・効率的に実施することができるよう環境整備を行います。

本市出身、在住の「所沢市ゆかりのアスリート」との交流や応援イベント等をきっかけにスポーツへの関心・興味を高めます。小中学生がオリンピック・パラリンピックの感動を享受できるように、学校における教育活動の一環として「見るスポーツ」を奨励します。

^{*1} ゴールボール…視力に障害がある方を対象に考案された球技。アイシェード(目隠し)を着用した1チーム3人のプレーヤー同士が、コート内で鈴入りボールを転がすように投球し合って味方のゴールを防御しながら相手ゴールにボールを入れることにより得点し、一定時間内の得点の多少により勝敗を決するもの。

^{*2} ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設…ナショナルトレーニングセンター(東京都北区)では対応できない、冬季、海洋・水辺系、屋外系の競技及び高地トレーニングについて、トップアスリートの強化活動の場所の確保を目的とし、指定されたトレーニング施設。

施策の内容と今後の方向

所沢市民体育館が、ゴールボールのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として指定を受けていることから、引き続き選手の練習環境を整えるとともに、日本ゴールボール選手権大会等の環境整備を行います。

主な事業の実施状況・評価

事業名	ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設活用事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	1,661千円
事業内容	平成29年に所沢市民体育館がスポーツ庁から東京パラリンピック競技種目であるゴールボールのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として指定されております。国際競技力向上に資する活動を効果的・効率的に実施することができるよう、施設の環境整備を引き続き行いました。				
実施状況	令和5年度当初の練習予定日数は69日でしたが、パリパラリンピック予選等での海外遠征が多くあり、使用日数は50日となりました。				
評価	優先的な練習機会を提供し、トレーニング設備を充実させることで競技力が向上し、男女ともにパリパラリンピックへの出場権を獲得しました。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	2 誰もが、いつまでも ^{からだ} 身体を動かしたくなるまちをめざします

主要施策	(3) スポーツに触れる機会の充実	所管課	スポーツ振興課
-------------	--------------------------	-----	---------

施策の目標

スポーツで優秀な成績を収めた個人や団体、長年にわたりスポーツの発展に寄与した方々に対する顕彰を通じ、スポーツへの意欲の高揚を図ります。

広報紙や市ホームページ等の多様な広報媒体を活用して、スポーツに関する情報提供を行うとともに、わかりやすい情報の発信に努めます。

スポーツによる地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブの支援を行うなど、地域コミュニティや社会参加のきっかけづくりとなるよう地域に根ざした事業に取り組みます。

施策の内容と今後の方向

スポーツ活動におけるモチベーション向上の一助として、顕彰制度を運用し、アマチュアスポーツの競技大会で優秀な成績を収めた選手や、長年にわたりスポーツの発展に寄与した方々に対し、その栄誉を顕彰しました。引き続き、顕彰制度の活用によりスポーツへの意欲の高揚を図ります。

スポーツイベントや教室、大会等、市民一人ひとりの多様なニーズに応じた情報が得られるよう、所沢市スポーツインフォメーション公式 SNS での発信を始めました。今後も多様な広報媒体を活用した情報提供などにより、スポーツに親しむきっかけづくりに努めます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	ところざわアスレチックフェスティバル開催事業 [新規]	所管課	スポーツ振興課	決算額	850 千円
市民をはじめ参加者の健康づくりと生涯スポーツの振興を図ることを目的とし、早稲田大学所沢キャンパスの陸上競技場においてところざわアスレチックフェスティバルを開催しました。					
評価	早稲田大学と連携を図り 10 月 14 日、15 日に大会を開催し、個人種目とリレー合わせて 755 人がエントリーしました。次回はより多くの市民に参加いただけるよう運営面の改善を検討します。				
事業名	イタリア選手団事前キャンプ受入れ事業 (世界水泳 2023 福岡大会) [新規]	所管課	スポーツ振興課	決算額	557 千円
世界水泳選手権 2023 福岡大会に出場するため、イタリア水泳連盟が所沢市にて事前合宿を行います。本市は空港と宿泊ホテルの送迎や、宿泊ホテルとの調整や市民との交流事業の企画を行い、イタリア水泳連盟には交流事業への参加や練習公開等を実施していただきます。					
評価	空港への出迎えに始まり、滞在中は、早稲田大学所沢キャンパスで市民による歓迎セレモニー、早稲田大学アクアアリーナでの公開練習を実施し、市内小中学生がトップスイマーと触れ合う機会を作りました。また、三ヶ島まちづくり協議会の案内で、イタリア水泳連盟を中氷川神社の夏祭りに招待し、日本文化を味わっていただく時間も設けました。				
事業名	スポーツ大賞表彰式開催事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	151 千円
スポーツ大賞の受賞者に所沢市スポーツ大賞表彰式を開催し、スポーツ大会等において優秀な成績を収めた者や、スポーツの発展に寄与した者に対し、その栄誉をたたえ顕彰します。 (優秀選手賞 1 人、優秀団体賞 1 団体 奨励賞 (個人) 3 人、奨励賞 (団体) 1 団体、特別賞 8 人と 1 団体)					
評価	4 年ぶりに入場者数を制限せずに表彰式を開催し、スポーツに携わる方々の模範として各受賞者を、顕彰することができました。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

主要施策	(1) 図書館サービスの向上	所管課	所沢図書館
-------------	-----------------------	-----	-------

施策の目標	<p>図書館が持つ情報資源の利用促進を図るとともに、図書館の情報提供能力の向上を目指します。</p> <p>レファレンスサービス等の充実により、市民への課題解決支援サービスの充実を図ります。</p> <p>インターネット予約、コンビニエンスストアなどでの図書等取次、他市の図書館との相互利用等について、更なる利便性の向上を目指します。</p> <p>対面朗読や大活字本等の資料整備など、障害のある方への図書館利用サービスの充実に努めます。</p> <p>関係機関及び関係団体との連携・協力を図り、市民の課題解決に役立つ情報の提供を行います。</p> <p>図書館電算システムの安定的な運用と、図書館ホームページのアクセシビリティ*の向上に努め、利用者の利便性の向上を図ります。</p> <p>本館による一元化した管理のもとで、全館良質なサービスの提供に努め、利用者の利便性の向上を図ります。</p> <p>* アクセシビリティ・・・製品やサービスに対するアクセスのしやすさを表し、それらの機能などを使用できることを保証すること。</p>
--------------	--

施策の内容と今後の方向	<p>コンビニエンスストア図書等取次事業において取次店舗拡大を図るため、コンビニエンスストア本社及び店舗との交渉を進めます。令和5年度は、2事業者3店舗に対して業務内容の説明を行うなど、取次店拡大に向けた交渉を進めましたが、契約には至りませんでした。令和6年度以降においても、新規事業者を含め引き続き交渉を進めていきます。また、更なるサービス拡大に向け、取次業務が可能な施設等の調査・交渉を進めます。</p> <p>対面朗読や郵送貸出サービスの利用拡大を図り、誰もが本に親しめる環境づくりに努めます。</p> <p>令和5年度に図書館電算システムの再構築を行いました。令和6年度以降も、図書館電算システムの安定的な運用に努め、利便性の向上を図ります。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	第9期電算システム再構築事業[新規]	所管課	所沢図書館	決算額	53,081千円
	<p>図書館電算システムを再構築し、より安定的なシステム運用を可能にするとともに、電子図書館*を開始するための準備、オーディオブック等の新たなサービスを開始しました。また、図書館ホームページをリニューアルし、利用者のWebサービスへのアクセス向上や、スマホ版の利用者のページにバーコードを表示し利用券の代わりに使えるようにする等、利便性の向上を図りました。</p> <p>*電子図書館・・・インターネットを利用して、パソコン・スマートフォンから、24時間、電子書籍の貸出・返却・閲覧が可能な非来館型サービス。</p>				
評価	<p>ホームページのリニューアルについては、利用者からも好評をいただいています。今後もシステムの安定的な運用に努めます。</p>				

事業名	所沢図書館分館施設管理運営事業	所管課	所沢図書館	決算額	329,203千円
	<p>均一な質の高いサービスを提供するため、館長会議及び担当者間の連絡会議、本館職員による指定管理者への定期的なモニタリングを実施し、安定した運営ができるよう運営・施設管理状況等の点検等を行っています。</p> <p>全分館で祝休日開館を実施し、夜間開館についても所沢分館・新所沢分館（平日）及び狭山ヶ丘分館（木曜日）において実施しました。これまでの実績をもとに、市民サービスの向上を図るため、自主事業の実施等を行います。</p>				
評価	<p>定期的なモニタリングや点検等により、安定した市民サービスを提供することができました。各</p>				

	分館は自主事業等を実施し、利用者拡大に向け努めました。
--	-----------------------------

事業名	コンビニエンスストア図書等取次事業	所管課	所沢図書館	決算額	9,663 千円
<p>図書館の開館時間内での利用や来館が困難な市民に向け、コンビニエンスストア図書等取次事業を継続して実施しました。令和4年10月末で2店舗が取り次ぎ中止となりましたが、円滑な配送ができるよう全館で統一したマニュアルに基づき業務を実施しました。</p> <p>【年間貸出点数】令和3年度 46,510 点、令和4年度 39,937 点、令和5年度 32,254 点</p> <p>【取次店舗所在地】(令和5年度5店舗)</p> <p>西所沢1丁目、松葉町、牛沼、本郷、糎谷</p>					
評価	<p>取り次ぎが中止となった店舗の代替店を含め、引き続き市民から要望の多い地区を中心に店舗数の増加を目指して、事業者への働きかけを行っています。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

主要施策	(2) 生涯にわたる読書活動の推進	所管課	所沢図書館
-------------	--------------------------	-----	-------

施策の目標	<p>様々な理由で図書館利用が困難な方にも、本に親しめる機会と環境づくりに努めます。</p> <p>図書館 HP や広報紙を活用して、図書館利用の促進を図ります。</p> <p>講演会、講座等の集会行事を開催し、読書活動の推進に向けた啓発に努めます。</p> <p>市民との協働による事業の開催等により、読書活動の推進に努めます。</p>
--------------	---

施策の内容と今後の方向	<p>令和5年度の図書館電算システム再構築に伴い、図書館 HP をリニューアルし、新たに電子図書館やオーディオブックのサービスを始めました。今後も、図書館 HP を活用した広報や情報提供など、Web サービスを拡充し、利便性の向上を図ります。</p> <p>非来館型サービスの一つとして、高齢者施設・地域の団体等への出張おはなし会の実施の拡充を目指します。</p> <p>講演会、講座等の集会事業を実施するとともに、関連図書の展示を行い、市民の読書活動の推進を目指します。</p> <p>市民による実行委員会の企画運営で図書館まつりを実施します。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	図書館利用推進事業	所管課	所沢図書館	決算額	12,379 千円
	<p>図書館利用の促進を図るため、図書館 HP を活用した広報に努めました。</p> <p>南極・北極や仏像等、様々な分野の講演会や図書館まつりを実施し、あわせて関連図書の展示を行うなど、幅広い年代の図書館利用と、読書活動の推進を図りました。</p>				
評価	<p>密な空間を作らないよう定員を少なくしたため、参加者数については減少しましたが、図書館まつり期間にあわせ、図書館川柳の募集や、高校生による図書紹介ポップの展示など幅広い年代の図書館利用を図り、参加者から好評を得ました。</p>				

事業名	「南極・北極から地球の未来を考えてみよう」開催事業 [新規]	所管課	所沢図書館	決算額	50 千円
	<p>ゼロカーボンシティ推進事業、図書館の利用促進及び読書活動推進の一環として、講演会「南極・北極から地球の未来を考えてみよう」を、令和5年8月27日午後2時から4時まで所沢図書館本館集会室にて開催しました。講師は(公財)日本極地研究振興会 代表理事 福西浩氏で、講演会当日を含む7月28日から8月29日の約1か月間、南極・北極関連書籍の特集展示も行いました。持続可能な社会に向けて何ができるのかを市民に考えてもらう契機となりました。</p>				
評価	<p>事前予約制で40人募集し48人の応募がありましたが、電子申請申込者に当日不参加が多く、参加者26人となりました。参加者アンケートでは、とても良かった、良かったが合わせて22人でした。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

主要施策	(3) 資料収集と蔵書構成の充実	所管課	所沢図書館
-------------	-------------------------	-----	-------

施策の目標	<p>市民に役立つ情報を提供し、知的財産である貴重な資料を次の世代に伝えるという公共図書館の役割を果たすため、機能を十分に発揮できる種類と量の資料の収集・整備を継続して進めます。一般・児童・青少年図書、新聞・雑誌、専門書、ビジネスや健康医療図書、視聴覚資料、データベースなど、あらゆる分野の充実に努めます。</p> <p>所沢を中心とした地域のあらゆる分野にわたる郷土資料の遡及・網羅的な収集に努め、市民への資料提供を行います。</p>
--------------	--

施策の内容と今後の方向	<p>○令和5年度は、図書資料1,016,334冊を購入し、関係機関と連携した展示を7回行いました。</p> <p>今後についても、次のとおり取り組みます。</p> <p>市民の課題解決に役立つ質の高い資料・情報源を収集するため、幅広い分野にわたって資料の選定を行います。また、関係機関と連携した展示、郷土・行政資料、ビジネス支援・健康医療に関するコーナーの資料充実等を行い、市民への情報提供に努めます。</p> <p>郷土資料等のデジタルアーカイブ化により資料を保存するとともに市民への情報提供に努めます。</p> <p>適切な管理のもと、新鮮で調和のとれた蔵書構成を維持し、利用状況、利用実態等を踏まえ、変化に対応した蔵書構成を構築していきます。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	図書資料収集・整理・保存事業	所管課	所沢図書館	決算額	55,515千円
	<p>郷土資料及び行政資料等については、関連機関と市役所各課に資料保存の必要性を周知し、貴重資料の提供を働きかけて収集と保存に努めました。</p> <p>図書資料については、市民の多様なニーズに応えられるよう、資料選定モニターの意見も活用しつつ、検討会議を開催し、図書資料の購入、その他寄贈資料などを受け入れ、収集及び整理に努めました。</p> <p>【郷土資料年間所蔵数】</p> <p>令和3年度 29,580点、令和4年度 30,531点、令和5年度 31,179点</p>				
評価	<p>郷土資料及び行政資料等については、資料保存の必要性について周知し、各種資料を収集することができました。図書資料の収集に努め、市民の多様なニーズに応えることができました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

主要施策	(4) 子どもの読書活動の推進	所管課	所沢図書館
-------------	------------------------	-----	-------

施策の目標	<p>生涯にわたり読書に親しむには、子どもの頃の読書習慣や読書環境が重要です。すべての子どもが、あらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、「所沢市子どもの読書活動推進計画」を推進します。</p> <p>読書のきっかけとなる様々な場や機会を提供し、読書を行う習慣を身につけることができるよう、読書環境の整備・充実を図ります。</p> <p>家庭、地域、学校や図書館等が相互に連携・協力し、子どもの自主的な読書活動を支援・推進するための体制を整備します。</p> <p>子どもの読書活動に対する理解を深め推進するため、子どもだけではなく保護者をはじめとする周りの大人に対しても、関心を高めるための普及・啓発活動を展開します。</p>
--------------	---

施策の内容と今後の方向	<p>令和5年度は「おはなし会」等の子ども向け事業、学校との連携事業等、地域に密着した事業を実施し、本館及び平成24年度から指定管理者による運営に移行した分館の全8館において、均質なサービスを提供できるよう、調整を図りました。今後も事業の拡大と均質で質の高いサービスを提供できるよう調整を図ります。</p> <p>令和5年度は「第3次所沢市子どもの読書活動推進計画」に従い、関係機関と連携しながら子どもの読書活動を推進しました。今後は令和6年3月に策定した「第4次所沢市子どもの読書活動推進計画」に従い、子どもの読書活動を推進していきます。</p>
--------------------	--

主な事業の実施状況・評価

事業名	子どもの読書活動推進事業	所管課	所沢図書館	決算額	2,892千円
評価	<p>「おはなし会」や乳幼児向けの「親子おはなし会」等の行事を全館で開催しました。令和5年度の子ども向け行事の大人・子どもの合計参加者数は12,174人で、本館・分館全8館の均質なサービスを維持しています。</p> <p>小学校3年生へのブックトーク(32校実施)、学校への団体貸出など、学校との連携事業を推進しました。</p> <p>関係機関との連携を図り、ところっこ親子ふれあい絵本事業では1歳6か月児健康診査時に読み聞かせの協力を34回行い、こども支援センターでは出張おはなし会を12回行いました。</p> <p>布の絵本についての講演会やおはなし会ボランティア中級講座を開催し、保護者や地域ボランティアなど、周囲の大人に対して、子どもの読書活動に対する理解を深め、関心を高めるための啓発を行いました。</p> <p>小2・小5・中2の児童生徒に対し行っている子どもの読書アンケートで、平成27~30年度は「本を全く読まない子どもゼロ」の目標を達成しておりましたが、その後、コロナ禍の影響等でここ数年目標値が達成できない状況です。前年度比では、本を全く読まない子の割合は小2で2.2%から3.1%、小5で7.1%から11.1%、中2で6.8%から13.0%と全て増加してしまっているため、さらに読書活動を推進していく必要があります。</p>				

事業名	第4次所沢市子どもの読書活動推進計画策定事業 [新規]	所管課	所沢図書館	決算額	0千円
評価	<p>関係各課で組織した策定委員会を年6回開催し、令和6年度から令和10年度の期間に所沢市の子どもの読書活動推進の指針となる「第4次所沢市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。</p> <p>令和5年度に所沢市立所沢図書館協議会でご意見をいただき、市民へのパブリックコメントを実施し、計画を策定しました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にしふるさと所沢の魅力を高めます

主要施策	(1) 文化財の保存・活用・調査	所管課	文化財保護課
------	------------------	-----	--------

施策の目標

文化財を次世代に継承するため、これらを記録・保存し、適切な保存管理に取り組みます。また、県指定史跡「滝の城跡」の遺構の保存と史跡整備の実施に向けた検討を進めます。

文化財をより身近な存在に感じてもらい、大切に守り伝える心を育むため、文化財展等の公開活用事業をはじめ、様々な活用策を実施して文化財の価値や魅力を周知します。また、観光や文化芸術など、関連性が高まる分野との連携について検討します。

指定文化財等の現状調査を継続し、文化財の価値を維持するとともに、学術的な研究を行い、その結果の情報発信を行います。

国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」保護のための事業を継続して実施します。

施策の内容と今後の方向

令和5年度も市内遺跡及び土地区画整理事業地内の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）で埋蔵文化財の有無を確認する確認調査と記録保存のための発掘調査を実施しました。今後も継続する必要があります。また、県指定史跡「滝の城跡」の整備に向けて、令和5年度は、所沢市滝の城跡整備検討委員会を組織し、発掘調査で得られた成果に文献史学からの検証を進めており、今後も令和7年度を目途に史跡整備の検討を進めます。

令和5年度は、(仮)所沢市文化財保存活用地域計画作成に着手しました。令和8年度文化庁認定を目途に作成を進め、長期的な視点で、本市の歴史文化の後世への継承に取り組んでいきます。

○令和5年度も「秋田家住宅」や「小野家住宅」などの公開を行うとともに、埋蔵文化財調査センターでは、小中学生を対象にした「埋文まつり」を開催しました。今後も文化財をより身近に感じてもらえるよう事業を開催していきます。

令和5年度は国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」の人工増殖によって1,012匹を増殖しました。今後も個体数の維持を図っていきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	所管課	文化財保護課	決算額	2,103千円
所沢市文化財保存活用地域計画作成事業〔新規〕 p.50にも掲載				
評価	<p>本事業は、地域に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く把握し、その周辺環境を含めて総合的に保存・活用するために作成するもので、市における文化財の保存と活用に関する総合的な計画であり、文化財保護法に位置付けられています。本計画を作成することで、「ふるさと所沢」の魅力がわかりやすく市民に伝わり、歴史や文化にまつわる地域の特徴（歴史文化）を活かしたまちづくりへの機運が高まる効果が期待できます。令和5年度は既存調査資料の整理・分析、資料調査を実施しました。</p> <p>これまで本市が行ってきた文化財に関する調査について整理することができ、また新たな調査を実施したことで、次年度以降に行う計画作成に向けての基礎資料を収集できました。</p>			

事業名	所管課	文化財保護課	決算額	24,380千円
歴史的建造物整備活用事業				
評価	<p>本事業は、寿町に所在する国登録有形文化財「秋田家住宅」と敷地全体の整備と活用を図るものです。中心市街地に今も残る「秋田家住宅」を整備し、活用することによって、「所沢のまちば」の歴史・文化を伝え、「ふるさと所沢」への愛着や理解を深めるとともに、日常的に市民が交流する空間の創出や所沢駅周辺から西所沢エリアや航空公園エリアなどへの回遊拠点の一つとして地域の商業や観光の活性化にも寄与することを目的とします。</p>			

<p>令和5年度は「秋田家住宅」の現況調査や測量調査及び土壌調査などを実施しました。また、事業の認知度向上と今後の活用に向けた経験を蓄積するため、「秋田家住宅」の特別公開を3回実施し、延べ757人が来場しました。</p>	
評価	<p>各種調査を実施することによって、整備活用案及び活用事業を進めるために必要な情報の収集と整理ができました。また、特別公開は地域のイベントとコラボして開催することで多くの方々に来場いただき、「秋田家住宅」や「所沢のまちば」の歴史を伝えることができました。</p>

事業名	土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査事業	所管課	文化財保護課	決算額	7,840千円
<p>確認調査：土地区画整理事業地内に存在する5地区を実施 北秋津・上安松地区 164 m²、若松町地区 3,355 m²、下安松東地区 2,250 m²は、遺構等は検出されませんでした。 上安松下安松西地区 9,935 m²では、竪穴住居跡（縄文時代）35軒、土坑24基、時期不明遺構2基などのほか、縄文土器や石器などを確認しました。 三ヶ島工業団地周辺地区 12,981 m²は、遺構を検出し、重殿原遺跡第1次発掘調査を実施しました。</p> <p>発掘調査：重殿原遺跡第1次調査（20 m²）：令和6年3月13日～3月22日 縄文時代と考えられる大型土坑（落とし穴状土坑）1基、縄文土器を表面採集</p>					
評価	<p>土地区画整理事業の進捗に影響を及ぼすことなく、決められた期間内で必要な調査を実施し、開発に伴う遺跡の破壊がないよう取り組みました。</p>				

事業名	滝の城跡整備事業	所管課	文化財保護課	決算額	972千円
<p>所沢市滝の城跡整備検討委員会を設立し、整備方針策定に向け、過去の発掘調査で得られた資料を踏まえて滝の城跡の歴史的評価を検討しました。併せて滝の城跡整備事業に伴う第9・10次調査の整理作業を行いました。</p> <p>【所沢市滝の城跡整備検討委員会】</p> <p>第1回会議：令和5年11月6日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～10次発掘調査の概要と成果について ・整備方針の方向性について <p>第2回会議：令和6年2月21日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～10次発掘調査成果に対する意見について 					
評価	<p>滝の城跡の歴史的評価について、滝の城跡整備事業に係る第1～10次発掘調査の成果を踏まえた上で有益な意見交換をすることができました。</p>				

事業名	文化財公開活用事業	所管課	文化財保護課	決算額	1,772千円
<p>市指定文化財の史跡、木村・徳田両中尉墜落地と、砂川遺跡の除草作業や植木剪定作業を実施しました。</p>					
評価	<p>除草作業や植木剪定を実施することで、史跡をきれいに維持することができ、見学された方々に「ふるさと所沢」の歴史に興味を持っていただく場の創出に努めました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にしふるさと所沢の魅力を高めます

主要施策	(2) 伝統芸能の維持発展	所管課	文化財保護課
-------------	----------------------	-----	--------

施策の目標	郷土芸能や伝統文化を次世代に継承するため、それらの保存団体を育成・支援するとともに、伝統芸能発表会等により市民への普及に努めます。
--------------	---

施策の内容と今後の方向	令和5年度は、隔年開催の「所沢市伝統芸能発表会」を開催し、継承団体が日頃の練習の成果を発表する場とともに市民が伝統芸能に親しむ場としました。今後も市内に伝承されている民俗芸能を広く市民に周知し、その技能や道具類を後世へ護り伝え、郷土の民俗芸能を継承する保存団体の存続と発展を目指していきます。
--------------------	--

主な事業の実施状況・評価

事業名	郷土の民俗芸能支援事業	所管課	文化財保護課	決算額	721 千円
	伝統芸能発表会をミューズ中ホールで開催し、重松流祭囃子保存会（北秋津囃子連・西所沢囃子連及び山口囃子連（合同）・荒幡囃子連・日東囃子連・青年部）・岩崎獅子舞保存会の169人にご参加、379人にご来場いただきました。また、岩崎獅子舞の奉納舞が瑞巖寺で開催されたり、重松流祭ばやしがNHKホールで開催された第24回「地域伝統芸能まつり」で披露されたりしました。				
評価	伝統芸能発表会を開催することで、来場者には民俗芸能を知って頂き郷土芸能の普及に努めるとともに、参加者には活動の場を増やすことで後継者育成支援の一環となりました。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます

主要施策	(3) 地域の文化財の掘り起こし	所管課	文化財保護課
-------------	-------------------------	-----	--------

施策の目標	指定文化財以外の資(史)料について調査を進め、新たな文化財の掘り起こしを行います。また、既存の文化財についても調査を深め、新たな価値の発見に努めます。
施策の内容と今後の方向	令和5年度も文化財情報紙「ところざわ文化遺産」を発行し、令和4年度から実施していた養蚕用具調査の成果などを掲載しました。今後も市内に残る文化財についての調査を進めるとともに、その成果を市民等に伝え、市民とともに「ふるさと所沢」の歴史文化を後世に伝えることができるよう取り組んでいきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	所沢市文化財保存活用地域計画作成事業[新規] p.47にも掲載	所管課	文化財保護課	決算額	2,103千円
評価	本事業は、地域に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く把握し、その周辺環境を含めて総合的に保存・活用するために作成するもので、市における文化財の保存と活用に関する総合的な計画であり、文化財保護法に位置付けられています。本計画を作成することで、「ふるさと所沢」の魅力を分かりやすく市民に伝わり、歴史や文化にまつわる地域の特徴(歴史文化)を活かしたまちづくりへの機運が高まる効果が期待できます。令和5年度は既存調査資料の整理・分析、資料調査を実施しました。				
評価	これまで本市が行ってきた文化財に関する調査について整理することができ、また新たな調査を実施したことで、次年度以降に行う計画作成に向けての基礎資料を収集できました。				

事業名	文化財保護普及啓発事業	所管課	文化財保護課	決算額	3,587千円
評価	所沢文化財情報紙「ところざわ文化遺産」第9号を発行し、令和5年4月25日付で所沢市有形文化財に新指定した「木造千手観音及び両脇侍像」のほか、「養蚕用具調査」や歴史的建造物整備活用事業に伴う現況調査の調査報告について概要を紹介しました。また、指定文化財説明板の張替などを行いました。				
評価	未指定文化財等の調査を行うことによって、「ふるさと所沢」に今も残る文化財の掘り起こしを進めています。さらに、調査成果について情報紙等を通じて市民に伝えることで、「ふるさと所沢」の歴史文化を市民とともに保存活用できるよう努めます。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます

主要施策	(4) ふるさと研究の推進	所管課	文化財保護課
-------------	----------------------	-----	--------

施策の目標	市民との協働により、ふるさと所沢の歴史、自然、文化等に関する資(史)料や情報を収集・保存し、調査・研究を進めます。また、その成果を、学校等とも連携しながら、展示や講座、体験学習会等を通して子どもから大人まで広く市民に伝え、郷土への愛着・理解を深めます。
--------------	--

施策の内容と今後の方向	<p>令和5年度もふるさと研究事業を実施し、「ふるさと所沢」への愛着・理解を深めるよう努めました。今後も市民や関係機関等と協力して、ふるさと研究活動を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の財産であるふるさと研究資料の収集・調査・整理を進めるとともに、市民や研究者等への利用に供するなど、その活用にも努めます。 展示、講座、体験学習会等の開催を通じて、資料保存の必要性を広く市民に周知します。
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	ふるさと研究活動事業 p.14にも掲載	所管課	文化財保護課	決算額	8,782千円
------------	------------------------	-----	--------	-----	---------

	<p>「ふるさと所沢」への愛着・理解を深めるため、次の事業を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示、企画展示(夏季企画展「関東大震災百年～その時、所沢は～」、冬季企画展「所沢の養蚕-蚕・繭・糸・絹が語る昔と今-」) 来場者 延べ2,055人 ふるさと研究講座探究編「クローズアップ所沢」(全4回シリーズ) 参加者:延べ189人 ところざわ星空フェスティバル 参加者:約800人 体験学習会「狭山丘陵・ちょっと地層を見て歩き」参加者:18人 市民学芸員活動 参加者 延べ664人 小中学校初任者研修への講師派遣、出張授業、体験学習等 参加者 延べ299人
評価	<p>他課や民間企業等も連携し、生涯学習推進センターにおいて「ところざわ星空フェスティバル」を5年ぶりに開催し、約800人の来場者にふるさと所沢の自然や歴史文化について伝え、体験してもらうことができました。企画展や体験学習会も開催し、評価指標としているふるさと研究活動にかかる延利用者数(展示見学者・講座参加者・閲覧学習室利用者の延総数)は5,344人(前年度4,534人)でした。前年度より多くの市民に「ふるさと所沢」の魅力を伝えることができました。</p>

事業名	三ヶ島菫子資料室運営事業	所管課	文化財保護課	決算額	152千円
------------	--------------	-----	--------	-----	-------

	<p>郷土の歌人・三ヶ島菫子を周知するため、次の事業を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三ヶ島菫子資料室の運営 来場者 延べ680人 資料室ボランティアによる展示解説(月1回) 三ヶ島菫子資料室文学講座「菫子と子規～食べものとからし～」、講演会「物語る写実 いま読み返す三ヶ島菫子」 参加者:95人 資料室だより「われもこう」の発行、ほっとメールでの菫子作品の配信(毎月)など
評価	<p>例年の講演会に加え、文学講座を開催し、様々な視点から三ヶ島菫子の魅力を伝えることができました。参加者アンケートでも8割以上の方に「興味深かった」と評価していただき、三ヶ島菫子の作品や生涯を周知することができました。</p>

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます

主要施策	(5) 郷土に関する資料の収集・保存・活用	所管課	文化財保護課
-------------	------------------------------	-----	--------

施策の目標	<p>市民から提供される郷土に関する資料の受け入れを行うとともに、収集した資料を有効に活用できるよう、整理・調査を行います。</p> <p>郷土資(史)料の散逸・劣化を防ぎ、後世に伝えるための保存施設について、既存施設を見直し、収蔵・展示できる施設の整備に向けた検討を行います。</p>
--------------	---

施策の内容と今後の方向	<p>令和5年度も収集した資料の整理・調査、代替化を進め、市民や研究者等の利用に供しました。今後も継続して進めていきます。</p> <p>令和5年度も収蔵施設整備に向けた検討を行いました。今後も、郷土資料を後世に残していくための保存施設整備について検討を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示や講座事業等を通じて、郷土資料保存の必要性を周知していきます。 ・令和元年度から、「所沢市郷土資料等収蔵施設整備に係る庁内検討調整会議」において、収蔵施設整備に向けた検討を行っています。
--------------------	--

主な事業の実施状況・評価

事業名	資(史)料の収集・整理・保存・活用事業	所管課	文化財保護課	決算額	4,453千円
評価	<p>・ 閲覧学習室の運営により、所蔵資料を閲覧・複写等の利用に供しました。</p> <p>・ ふるさと所沢に関する資料の収集・整理・保存を進め、展示等の事業を通じて広く公開しました。</p> <p>・ 所沢市文化財調査報告書「お蚕さま今昔物語 - 記録・記憶・用具・現場でつづる所沢の養蚕 - 」を発行しました。</p> <p>・ 市民等からの申出を受け、郷土に関する資料の調査、受け入れを行いました。</p> <p>・ 古文書のマイクロフィルム撮影、既存マイクロフィルムのデジタルデータ化など、資料の代替化を進めました。</p> <p>・ 保存年限が切れた歴史的公文書の収集を行いました。</p> <p>収集・整理・保存した資料を、展示や閲覧学習室で市民の学習活動に活用することで、「ふるさと所沢」への理解を深めることに役立てました。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります			
基本目標	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます			
主要施策	(1) 家庭教育への支援		所管課	社会教育課
施策の目標 <p>すべての教育の出発点である家庭教育において、子どもが「生きる力」を身につける基盤づくりが必要です。子育てにおいて責任がある親が、子どもを主体的に育てていくことができるよう、市長部局や関係機関と連携して親の学びや育ちを支援します。</p> <p>地域のつながりが希薄化する中、地域での学びや交流の場を通じ、家庭が地域や学校との関わりを持つ機会を充実させ、社会全体で家庭教育を支援していくネットワークづくりを進め、子どもたちの豊かな成長を促します。</p>				
施策の内容と今後の方向 <p>家庭教育学級*の開設により、保護者が子育てについて主体的に学ぶ機会を継続して提供するとともに、卒業生の保護者など地域の方々の家庭教育学級への参加も促進することで、地域のコミュニティ形成に貢献し、社会全体で子どもたちを育てる環境醸成に努めます。</p> <p>*家庭教育学級...子どもの成長・発達段階に伴う家庭での教育や子育ての不安や悩みについて、保護者が地域や学校とつながりながら学び合う場。</p> <p>社会の多様化、複雑化にともなう子育ての悩みや課題についての講座や、教養を深める講座等を紹介し、魅力的かつ効果的に学級運営ができるよう支援します。</p> <p>○家庭教育学級や子育て講座に参加できない人々にも学ぶ機会を提供できるよう、ITの活用等の新しい事業手法も試みながら、事務の見直しに努めます。</p> <p>○令和5年度は主に、家庭教育に資する講座等の開設を各小中学校区家庭教育学級運営委員会に委託する家庭教育学級事業を中心に事業を実施し、各運営委員会との連絡方法を見直すなど事務の見直し等を行いました。令和6年度も引き続き、講座の企画運営や事務手続き等、運営面での負担軽減に配慮しながら各運営委員会の状況に合わせた支援を続けていきます。</p>				
主な事業の実施状況・評価				
事業名	家庭教育推進事業	所管課	社会教育課	決算額 3,007千円
<p>・各小中学校区に組織される運営委員会に家庭教育に関する講座を企画実施する家庭教育学級の開設を委託し、保護者に向けた子育て等に関する学習の機会を提供しました。また、各校区が講座を開催するにあたり、相談会やホームページによる情報提供、地域資源を活用した講座の提案などにより、各学級の活動支援に努めました。</p> <p>【家庭教育学級の参加者数等】小中学校 47 学級・学級生数 2,763 人・講座数 387 講座 (子育て講座・人権教育合同講座・心のふれあい相談員講座など)</p> <p>・家庭教育啓発リーフレット(小学校編・中学校編)を作成し、対象の保護者に配布しました。</p> <p>・小学校入学を控えた保護者に対し、就学時健康診断や入学説明会などの機会に、入学に向けての心構えなど子育て講座を実施しました。</p> <p>【子育て講座の参加者数等】小学校 30 校・参加者数 2,258 人</p>				
評価	<p>コロナ禍による行動制限が解除され、家庭教育学級においても活動しやすい環境となったこともあり、学級生数が 1,131 人増の 2,763 人、講座の数が 43 講座増の 387 講座となりました。また、子育て講座も実施校が前年比 1 校増加の 30 校、参加者数が 88 人増加の 2,258 人となりました。</p>			

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます

主要施策	(2) 放課後の居場所づくり	所管課	学校教育課、社会教育課
-------------	-----------------------	-----	-------------

施策の目標

放課後の小学校を児童の安全・安心な遊び・学びの場として提供する放課後支援事業「ほうかごところ」では、それぞれの地域の特色を生かした取組を実施し、地域の力で子どもたちの豊かな体験と健やかな成長を支えます。

放課後支援員や地域のボランティア等で、子どもたちが異年齢集団で元気に遊んだり学んだりする姿を見守り、地域の実情にあわせて、子どもたちの健全育成を支援します。

施策の内容と今後の方向

毎年、危機管理及び児童理解についてスタッフ研修会を2回実施していますが、今後も研修を充実させ、更なる児童の健全な育成を図ります。

より多くの子どもが楽しく関わり合う中で、自主性や社会性を高められるよう、それぞれの地域の特色を生かした活動の充実を一層図っていきます。

地域の子どもは地域で育てるという「地域立」の考え方を踏まえ、安全・安心な居場所づくり、異年齢間の交流を通した子どもたちの健全育成という趣旨や意義を一層具現化していきます。

「放課後支援事業」を行っている既存の10校の充実を図ります。

主な事業の実施状況・評価

事業名	放課後支援事業	所管課	学校教育課	決算額	47,885千円
<p>事業推進のため、以下の会議・研修会を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所沢市放課後支援事業「ほうかごところ」リーダー会議 ・「ほうかごところ」リーダー及びスタッフ研修（資料提供） ・「ほうかごところ」連絡協議会 ・各「ほうかごところ」における運営委員会の開催（実施校ごとに） ・令和5年度事業報告書を作成し、関係所属・各ほうかごところ・運営委員会等に配布 <p>【年間利用児童数】 延べ 61,362 人 【開設した日数】 10校平均で 182 日</p> <p>【令和5年度の登録率】 44,28%</p> <p>登録率・・・小学校に在籍する全児童数のうち、ほうかごところへ登録した人数の割合。</p>					
評価	会議や研修会の開催により情報共有を図り、事業の円滑な実施に資することができました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります			
基本目標	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます			
主要施策	(3) 青少年教育の推進		所管課	社会教育課
施策の目標				
<p>子どもは異年齢集団での交流や、自然体験、社会体験など様々な体験活動から多くのことを学び、「生きる力」を身につけます。このような体験活動を行う社会教育関係団体を支援し、子どもが多方面から成長できる環境づくりを進めます。</p> <p>子どもは、大人の姿を見て育ち、大人の責任ある行動が地域の教育力につながっています。多くの大人が活動に参加し、地域ぐるみで子どもたちの活動に取り組むことができるよう、青少年教育について学ぶ機会の拡充を図ります。</p>				
施策の内容と今後の方向				
<p>「子ども会育成事業」及び「所沢こどもルネサンス開催支援事業」では、活動状況がコロナ禍前に回復するよう、補助金交付金の交付や相談対応を適宜行う等、継続的に活動できるよう支援しました。また、「所沢こどもルネサンス開催支援事業」では、実行委員会と連携し、申込方法や実施内容を見直ししながら、多くの子どもたちが様々な体験活動に参加できるよう、開催支援を行いました。</p> <p>令和6年度も引き続き学校、地域、市役所内関係部署や各種団体と連携しながら事業を進めるとともに、子どもたちが主体となって活動できるような事業を増やせるよう努めます。</p>				
主な事業の実施状況・評価				
事業名	子ども会育成事業	所管課	社会教育課	決算額 1,438千円
<p>地域内で異年齢の子どもたちが交流し、体験活動を行う子ども会育成会の活動を支援するため、自治会や町内会など地域で活動する子ども会育成会をとりまとめている校区育成会（20団体中18団体）に交付金を交付し、各小学校区子ども会の活動を支援しました。</p> <p>所沢市子ども会育成会連絡協議会に補助金を交付し、令和5年度は「彩の国21世紀郷土かるた」所沢大会（後援）ジュニアリーダー養成講座（後援）、5年生インリーダー研修会（共催）を開催しました。</p> <p>中止：6年生インリーダー研修会（後援）</p>				
評価	各小学校区子ども会育成会は昨年度より3校区多く活動を再開し、所沢市子ども会育成会連絡協議会への協力・支援により、5年生インリーダー研修会を4年ぶりに開催しました。			
事業名	所沢こどもルネサンス開催支援事業	所管課	社会教育課	決算額 3,226千円
<p>市民ボランティアで組織される「所沢こどもルネサンス実行委員会」に補助金を交付し、子どもを対象とした各種事業への支援を行いました。</p> <p>「こども文学のひろば」「まんが・イラストコンクール」「クリエイティブドラマのワークショップ」「おはなしのひろば」「トコトコタウン」「あかさたな音楽祭」</p> <p>「トコトコタウン（子どもたちがつくるまち）」は昨年度の事業の見直しから、更に実施方法及び内容を充実させ、「まちぞうプロジェクト」「ところざわこども会議」「トココロポット工房」「こども映画教室」として開催しました。</p> <p>【事業参加者数】年間延べ7,849人</p>				
評価	新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、ほぼ例年どおりの事業を実施できるよう支援し、全体の延べ参加者数が昨年度より885人増加しました。			

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

主要施策	(1) 教師力・組織力の向上	所管課	学校教育課、教育センター
-------------	-----------------------	-----	--------------

施策の目標

教職員の年齢や経験、職層に応じ、学校の課題解決に向けた実践力、指導力を身につける研修の実施や学校への支援を通して、教職員の資質・能力の向上に努め、所沢の教育を担う人材を広い視野から計画的に育成します。

学校指導訪問、学校管理訪問、生徒指導訪問、教育相談室訪問等を実施し、教育内容の一層の充実、いじめ・非行問題行動・不登校の未然防止を図ります。また、学校を法的側面から支援し、問題の早期解決を図ります。教職員の負担軽減、業務の適正化の観点から、校務や事務処理の効率化・簡素化や、職員間での連携、分担体制構築等を図り、教員が本来行うべき教育に関する業務に専念できる、持続可能な学校指導体制を整備します。

施策の内容と今後の方向

教職員の年齢や経験、職層に応じた研修・研究を行い、教職員の資質向上を図りました。それぞれのねらいを明確にし、本来の目的が達成できるような適切な支援を進めていきます。

「学校法律相談事業」により、学校が教育問題に詳しい弁護士に直接相談し、法的側面からの助言を得ることで、早期の解決を図ることができる体制を構築しています。これにより、管理職及び教職員の負担軽減につながっています。

○平成 28 年度に「所沢市立小中学校県費負担教職員の業務負担軽減検討委員会」を設置し、学校における業務負担軽減策について協議・検討し、教職員の業務負担軽減につながる実効性のある取組を推進しています。あわせて、埼玉県教育委員会が策定した「学校における働き方改革基本方針」を受け、本市では「所沢市立学校における働き方改革基本方針」を策定し、教職員の負担軽減や長時間勤務の解消に継続して取り組み、学校教育の質の維持向上を図ります。

教職員の負担軽減の取組として、各学校に対して「業務負担軽減に向けたアイデア集」を配布しました。また、健やか輝き支援室及び所沢市立教育センターの指導主事やスタッフを学校に派遣して児童生徒・保護者からの相談対応を担う等、学校と教育委員会が組織的に取り組むことによって、学校で専門的な内容を抱え込むことなく、管理職及び教職員等の対応が軽減され、教職員の負担軽減につながっています。

調査の精選、文書の電子化、記入例の配布等により、引き続き教職員の負担軽減を推進していきます。

部活動については、「所沢市『設置する学校に係る部活動の方針』」に則り、適切な休養日等や活動時間を設定し、教員の働き方改革を推進していきます。また、令和 5 年度も部活動指導員を中学校へ 6 人配置し、部活動の充実並びに教職員の負担軽減を図りました。

主な事業の実施状況・評価

事業名	資質向上事業	所管課	教育センター	決算額	110 千円
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験年数や校務分掌に応じた研修を行い、教職員の資質向上を図りました。指導主事が受講者の所属校を訪問し個別に支援・指導を行う研修やオンラインを活用したグループ協議等を行う研修を実施しました。 ・県主催の初任者研修、ステップ・アップ研修、ジャンプ・アップ研修、5 年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修、20 年経験者研修の円滑な受講を支援しました。(対象者 291 人) ・教育センター研究員^{*1}による実践研究や専門研究等、一年間を通じて支援し、教職員の資質向上を図りました。 					
<p>^{*1}「本市教育振興に資する」ことを目的とした研究の委嘱を受けている教職員</p>					
評価	<p>県主催の年次・経験者研修支援においては未履修等、受講者の不利益となることがないように、漏れのない手続きや支援を行いました。また研究員においては、研究成果を市内教職員に広く周知する研究発表会を開催し、教職員の資質向上を図りました。満足度「大変よかった」「ややよかった」の合計は 98.3%でした。</p>				

事業名	学校支援訪問事業	所管課	学校教育課	決算額	0千円
<p>管理・指導両面で学校を支援できるよう、次の訪問を行いました。</p> <p>【所沢市教育委員会・西部教育事務所 学校管理訪問】</p> <p>学校運営上の諸課題を把握し、必要事項について指導・助言を行い、学校管理・運営の適正化を図ることを目的とし47校1園に対し、所沢市教育委員会学校管理訪問を行いました。また、西部教育事務所に要請しての学校管理訪問を47校に対し行いました。</p> <p>【所沢市教育委員会・西部教育事務所 学校指導訪問】</p> <p>学校指導訪問は、教育行政施策の浸透や教育課程の管理・学習指導等、学校教育の専門的事項について指導・助言し、学校教育の充実を図ることを目的に、市内全校を対象に2年に1回実施しています。令和5年度は24校に訪問しました。</p> <p>【生徒指導訪問】</p> <p>年2回、市内すべての公立小中学校に生徒指導、特別支援教育、教育相談に関する学校訪問を実施し、生徒指導、特別支援教育、教育相談上の重点と課題を把握するとともに、指導・助言を行い、いじめ・不登校の未然防止に努めました。</p>					
評価	各訪問を通して、学校に対して様々な面から支援することができました。				

事業名	学校法律相談事業	所管課	学校教育課	決算額	1,320千円
<p>学校と、児童生徒やその保護者、近隣住民等との間で生じる様々な問題の解決に当たり、学校が教育問題に詳しい弁護士に直接相談し、法的側面からの助言を得ることで早期の解決を図りました。</p> <p>全小中学校の校長を対象とした学校法務研修会を開催し、学校で発生することが想定される問題の法的な解決のための具体的な対応事例を中心に研修しました。</p> <p>法律相談は、電話による相談を58件、面談による相談を5件行いました。</p>					
評価	学校が弁護士に直接相談することで、問題の解決の方向性を見出すことができました。また、法的側面からの助言を得ることにより、問題の早期解決を図ることができました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

主要施策	(2) 特色ある学校づくりの推進	所管課	学校教育課
-------------	-------------------------	-----	-------

施策の目標	各学校が、創意工夫を凝らした教育活動が展開できるように、特色ある学校づくりを支援します。教育課程の編成については、新学習指導要領に示された、各学校における地域の環境や人材を活かす「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、様々な授業実施の可能性について研究していきます。
--------------	---

施策の内容と今後の方向	<p>平成 13 年度より「特色ある学校・園づくり支援事業」を実施しており、各学校・園では、特色ある学校・園づくり宣言文を掲げ、事業委託料を有効活用して、地域の人材や環境を活かした創意工夫のある教育活動を実践するとともに、毎年報告書を作成・配布して各校の実践内容の周知を図っています。</p> <p>各学校・園では、取組を学校評価で検証するとともに、成果を学校だよりや HP 等で発信しています。</p> <p>各学校・園では、特色ある学校・園づくりを経営の中心的事項として推進し、地域の特色及び各学校・園の特色を活かし、創造的に生きる子どもたちの育成を図っていることから、学校評議員はもとより、保護者、地域からの評価も高いため、今後も本事業の推進と高い有効性の一層の周知を広く図っていく必要があります。</p>
--------------------	--

主な事業の実施状況・評価

事業名	コミュニティ・スクール導入事業[新規]	所管課	学校教育課	決算額	168 千円
	<p>学校・地域住民等との信頼関係を深め、安全・安心な学校と地域づくりの推進を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となってよりよい教育の実現を目指すことを目標とし、令和 5 年度からコミュニティ・スクール*を段階的に導入しています。</p> <p>*コミュニティ・スクール...学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進するための「学校運営協議会」が設置された学校。</p>				
評価	<p>令和 5 年度は、松井小学校、椿峰小学校、北野小・中学校において、コミュニティ・スクールをモデル校として導入し、学校・家庭・地域が学校教育目標のビジョンを共有しました。</p> <p>令和 6 年度はさらにモデル校を拡大し、25 校で 15 のコミュニティ・スクールを試行的に実施します。</p>				

事業名	特色ある学校づくり支援事業 p.22 にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	9,396 千円
	<p>所沢第二幼稚園及び各小中学校が、創意工夫を凝らし、地域の特性を活かした、主に体験的な教育活動を実施しました。地域の特性を活かした活動として、「生活科や総合的な学習の時間等における地域の伝統芸能や地場産業の体験的な学習」「環境美化のための保護者、地域と連携した花壇への植栽」「地域の行事や清掃活動への参加」等が行われました。</p> <p>教育委員会では、各校・園に対し、前年度の実績と今年度の計画を元に事業委託料を配当したほか、年度途中と年度末に、進捗状況の把握及び成果報告と次年度の計画についてヒアリングを行い、事業委託料の有効活用や本事業の周知方法についての助言など、各校・園の取組を支援しました。</p>				
評価	<p>活動を通して子どもたちに豊かな心や、主体的に学び自ら問題を解決する資質・能力を養うことができました。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります				
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます				
主要施策	(3) 危機管理体制・学校安全の充実	所管課	学校教育課		
施策の目標	<p>学校内外での事件・事故を未然に防止するとともに、地域の防犯体制の強化、交通安全の推進を図るため、安全・安心な学校と地域づくり推進事業を推進します。</p> <p>「子どもの命に勝るものはなし」を全教職員の共通認識とし、危機管理マニュアルの点検や見直し、避難訓練等の実施、メール配信システムを活用した不審者情報等の適切・迅速な共有化等により、学校の危機管理体制を確立します。</p>				
施策の内容と今後の方向	<p>○本市独自の取組として、市費のスクールカウンセラー4人を市内全中学校に配置(1人あたり3~4校兼務)し、健やか輝き支援室心理士の指導の下、各学校の教育相談体制を充実させるとともに、児童生徒が安心してSOSを発することのできる学校指導体制を実現させます。</p> <p>児童生徒の安全・安心のため、小中学校の登下校指導、校内パトロール、管理職への危機管理面でのアドバイスなど、積極的に働きかけていきます。</p> <p>交通ルールを遵守し、特に自転車による交通事故防止については、危険予測の視点も加えた指導に努めます。子どもたちが地域行事に主体的に参加できるように働きかけをしていきます。</p> <p>学校・家庭・地域が連携して、幼・保・小中学校で子どもを育てる取組を実施します。</p>				
主な事業の実施状況・評価					
事業名	安全・安心な学校と地域づくり推進事業 p.25にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	12,849千円
評価	<p>「安全・安心な学校と地域づくり推進本部」(行政機関・警察・地域関係団体・中学校・高等学校等により組織する連絡協議会)の本部会議を令和5年度は1回開催しました。</p> <p>本事業の大きな4本の柱として、「いじめ撲滅」「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」を掲げています。例年、推進支部ごとに、登下校の見守り、校外パトロール、防犯講習会、あいさつ運動等の活動を行っています。</p> <p>「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」の3つの事業については本市として地域への浸透や当初の目標を達成したため、今後の学校地域ごとの課題に沿った内容で学校ごとに継続したり、学校運営協議会制度の取組の一つとするなどして、移行していきます。</p> <p>【児童生徒の地域行事への参加人数】 令和5年度 延べ 17,597人 (令和4年度 延べ 10,238人)</p> <p>【推進員の活動状況】学校訪問・地域での支援 令和5年度 延べ 549回 (令和4年度 延べ 491回)</p> <p>【支部会議の開催状況】 令和5年度 27回 (令和4年度 28回)</p>				
	<p>経験豊富な推進員(様々な課題対処の経験のある元校長)が各学校を巡回するなど、きめ細かな支援ができました。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

主要施策	(4) 学校・家庭・地域の連携推進	所管課	学校教育課
------	-------------------	-----	-------

施策の目標

学校評議員制度^{*1}を活用し、保護者や地域住民等の幅広い意見を学校運営に活かし、学校の活性化を図ります。また、学校評価^{*2}を適切に行い、その結果と改善の方針等について、地域・保護者等に、学校だよりや学校のHP等で速やかに公表し、地域と協力して学校運営を進めます。

幼児教育と学校教育の滑らかな接続に向けて、幼児教育振興協議会の協力を得て作成した「小1スタートカリキュラム」を活用し、園・学校・家庭が連携し、子どもの健やかな成長を支えます。

小中学校が一貫した新たな教育を推進するために、中学校区内で「目指す児童生徒像」や「重点目標」等を設定し、共有します。また、授業改善の視点を踏まえた9年間を見通したカリキュラム^{*3}を編成し、学習指導や生活指導の改善をします。

^{*1} 学校評議員制度…開かれた学校づくりの一環として、地域住民が学校運営に参画する制度。教育委員会が委嘱する学校評議員は、校長の求めに応じて、学校運営に関し意見を述べるができる。

^{*2} 学校評価…学校が教育活動の重点目標やその実現のための具体的方策を定め、その実施結果や達成状況について、検証・評価を行い、さらにこれを公表することで説明責任を果たし、学校運営の改善を図る仕組み。

^{*3} 9年間を見通したカリキュラム編成…学習規律、授業での約束、発達段階を踏まえた教科指導等についての情報を共有し、カリキュラムを編成する。

施策の内容と今後の方向

市内の全小中学校において、学校ごとに学校評議員会を開催して意見をいただき、学校運営に活かしました。今後は、学校運営協議会若しくは学校評議員制度（コミュニティ・スクール）を活用し、家庭や地域と連携・協力して、開かれた学校づくりを引き続き進めていきます。

幼・保・小の連携強化を図るため、所沢市幼児教育振興協議会を中心に連携を深めました。市内の幼稚園・保育園・小学校が東西南北・中央の5つのブロックに分かれて、共通の課題を持ち、授業公開や情報交換会を行い、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図りました。

幼児教育と学校教育の滑らかな接続に向けて、埼玉県から出されている「子育ての目安『3つのめばえ』』について、保育園・幼稚園・小学校で活用し、子育ての大切さを伝えました。今後は、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育課程「小1スタートカリキュラム」の定着を継続的に行っていく必要があります。

主な事業の実施状況・評価

事業名	「学び創造アクティブPLUS」学力向上推進事業 p.12にも掲載	所管課	学校教育課	決算額	1,881千円
評価	各小中学校において学び創造アクティブPLUSの趣旨を踏まえ、研究等を進めました。また、実施状況調査を実施し、本年度の成果と課題について、成果と課題を校・園長会等で共通理解を図りました。				
評価	研究を通して小中学校で授業の質を高めるとともに、中学校区で共通理解を図ることができました。				

事業名	学校評議員活用事業	所管課	学校教育課	決算額	0千円
評価	各小中学校に、学校の必要に応じた人数の学校評議員を委嘱しました。評議員は、学校評議員会や学校評価にかかる学校関係者評価等、校長の求めに応じて意見を述べ、学校教育活動の充実に寄与しました。				
評価	多くの学校で、子どもたちがしっかりと学習できる教育活動を展開してほしいというご意見をいただき、各学校の教育活動の充実につながりました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

主要施策	(1) ICT 環境の整備	所管課	教育センター、学校教育課
-------------	----------------------	-----	--------------

施策の目標	<p>学校における ICT 関連機器の整備を進め、学習環境の充実を進めるとともに、教職員の校務負担を軽減し、子どもと関わる時間の確保を図ります。</p> <p>タブレットや電子黒板等の ICT 機器、校務支援や図書管理のシステム、LAN 環境等のインフラなど、ICT 利活用のための基盤の整備を計画的に進めます。</p>
--------------	--

施策の内容と今後の方向	<p>各校の好事例を共有し、ICT の活用により、教職員の働きやすい環境整備に努めます。</p> <p>GIGA スクール構想の実現に向けて整備した学習者用コンピュータの効果的な活用に向けて、今後も計画的に ICT 関連機器の更新・整備に努めます。</p>
--------------------	--

主な事業の実施状況・評価

事業名	ホームページ作成システム導入事業 [新規]	所管課	教育センター	決算額	4,535 千円
	市内全小中学校で統一したホームページ作成システムを導入しました。市民の方が、必要な情報を入手しやすくなり、社会に開かれた学校づくりを進めることができました。				
評価	7月に全校対象の研修会を行い、操作説明を行いました。各校工夫を凝らし、更新をしています。また、HP サポーターを2回派遣し、各校への支援を行いました。				

事業名	小中学校校務用コンピュータ等更新事業 [新規]	所管課	教育センター	決算額	49,075 千円
	平成 29 年に導入した校務用コンピュータ 981 台の更新を行いました。				
評価	夏季休業中に、各校から該当機種を回収し、計画的に整備を行いました。データの消去作業等も確実に行われました。				

事業名	学級数増加に伴う ICT 環境整備事業	所管課	教育センター	決算額	4,982 千円
	特別支援学級の増設や段階的 35 人学級への移行、児童生徒増による学級数増加に伴い、新たに普通教室となる教室に液晶ディスプレイ、無線対応授業支援用機器及び無線 LAN アクセスポイントをそれぞれ整備することで、ICT を活用した学習を展開できる環境を整えました。				
評価	学級数が確定した後、速やかに契約等を進め、教室環境を整えることができました。				

事業名	デジタル教科書更新事業 (コンテンツ配信サービス導入)	所管課	教育センター	決算額	14,337 千円
	市内小中学校でデジタル教科書のコンテンツを普通教室に設置した大型液晶ディスプレイに映すことにより、授業における ICT 機器の効果的な活用の促進につなげることができました。				
	<p>国語・社会・理科・英語：小 5・小 6・中 1・中 2・中 3</p> <p>算数・数学：小 1・小 2・小 3・小 4・小 5・小 6・中 1・中 2・中 3</p>				
評価	デジタル教科書のコンテンツを活用することで、児童生徒の学習意欲の向上や学習指導のさらなる充実を図ることができました。また、各学校のニーズを受け、学習 e-ポータル「L-gate」からデジタル教科書が利用できるようにし、活用の促進を図りました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

主要施策	(2) 学校環境の整備・適正化	所管課	教育施設課
-------------	------------------------	-----	-------

施策の目標

老朽化した学校トイレについては、洋式化やバリアフリー化、臭気対策や給排水管の更新等を行い、学校環境の向上を図ります。

小中学校からの要望によりバリアフリー改修を行う際には、児童生徒の障害に応じた必要な配慮をします。

学校備品について計画的な整備を行います。

学校施設の非構造部材*の耐震化対策を推進します。

「所沢市公共建築物における木材の利用の促進に関する方針」により、可能な範囲で校舎内装木質化を進めます。

学校施設の維持管理・更新等を着実に推進するため、学校施設の長寿命化計画（個別施設計画）を策定します。

施設の複合化等、学校施設の整備について公共施設マネジメントの考え方に基づき、関係部局と連携して研究します。

* 非構造部材…柱や梁などの構造体ではなく、天井材や外壁（外装材）など、構造体とは別に区分された部材。

施策の内容と今後の方向

○学校トイレは、令和5年度に校舎2系統目及び屋内運動場の工事を実施し、今後も引き続き改修を進めます。

○学校校舎内部改修工事は、木材を活用し令和5年度に南陵中学校の3,4階の内部改修工事を実施しました。令和6年度には1,2階の内部改修工事を実施します。

○令和5年度に所沢市公共施設長寿命化計画に基づき、基本設計により長寿命化改修対象校3校の改修順序を定めました。今後は、1校目に改修することとなった安松小学校の実施設計を実施します。

○学校施設の長寿命化、複合化等、学校施設の整備について、所沢市公共施設長寿命化計画に基づき、令和5年度に引き続き、今後も関係部局と調整のうえ、事業を進めていきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	学校施設長寿命化改修事業（公共施設マネジメント推進事業の一環）[新規]	所管課	教育施設課	決算額	52,360千円
評価	劣化度調査等の総合的判断から、安松小学校、林小学校、上新井小学校の改修順位を決定しました。また、改修内容を検討し、基本設計を取りまとめました。				
評価	今後も継続する長寿命化改修事業のモデルとなる成果を取りまとめることができましたが、業務スケジュール管理や、物価上昇などを踏まえた工事内容の工夫など、検討すべき課題が生じました。				

事業名	学校施設太陽光発電設備設置事業	所管課	教育施設課	決算額	31,100千円
評価	明峰小学校及び三ヶ島小学校の屋上に太陽光発電設備を設置する工事を進めましたが、材料の一部が入手困難となったことを受け、2か年度工事に計画を変更しました				
評価	12月上旬頃、電線ケーブルの調達が困難であることが判明しましたが、全国的な課題であったため、工事請負契約の変更と、それに伴う予算の繰越などを滞りなく行うことができました。				

事業名	小中学校 LED 化整備事業	所管課	教育施設課	決算額	748,508 千円
令和 4・5 年度の 2 か年で小中学校 47 校の屋内運動場及び武道場の既存照明器具を LED 照明に改修することで二酸化炭素の排出削減及び光熱費等の維持管理費の縮減を図りました。令和 5 年度は、小学校 24 校、中学校 11 校において、LED 化改修工事を行いました。					
評価	学校行事や他工事との日程調整を行い、予定どおりに工事を完了することができました。				
事業名	小中学校校舎照明 LED 化事業 [新規]	所管課	教育施設課	決算額	9,350 千円
校舎に設置されている既存照明の LED 化を実施し、二酸化炭素の排出削減及び光熱費等の維持管理費の縮減を図るため、小学校 10 校、中学校 5 校の設計を行いました。					
評価	設計が完了した 15 校の内、令和 6 年度には 8 校の工事が決まりましたが、今後予定する学校について、他事業との調整を踏まえた検討が必要となりました。				
事業名	学校トイレ改修事業	所管課	教育施設課	決算額	724,658 千円
学校トイレの老朽化に伴い、洋式化やバリアフリー化、臭気対策や給排水管の更新等の改修工事を小学校の校舎を 2 校、中学校の校舎を 1 校、小学校の屋内運動場を 8 校、中学校の屋内運動場を 4 校で実施しました。 引き続き、次年度の工事に向けて、小学校の校舎を 2 校、中学校の校舎を 1 校、小学校の屋内運動場を 8 校、中学校の屋内運動場を 4 校の設計業務委託をそれぞれ実施しました。					
評価	学校トイレの洋式化等について、計画のとおり設計及び工事を実施し、児童生徒が使いやすいトイレを整備しました。令和 5 年度までで学校全体の洋式化率は、57.7%となっております。				
事業名	中学校校舎内部改修（木質化）事業	所管課	教育施設課	決算額	109,670 千円
昨年行った実施設計を基に南陵中学校校舎の 3,4 階部分の老朽化が進んでいる校舎内の普通教室、廊下、階段などの木材を使用した内部改修工事を行いました。					
評価	老朽化した校舎内部を生徒たちのストレス緩和や心理・情緒に効果があるとされる木材を使用した改修工事を行うことで、学習環境の整備を図ることができました。				
事業名	小学校施設整備事業	所管課	教育施設課	決算額	134,103 千円
所沢市公共施設長寿命化計画に基づき、椿峰小学校、南小学校南校舎棟の屋上防水改修工事、北野小学校屋内運動場の屋上屋根及び外壁改修工事を実施しました。					
評価	経年劣化や雨漏りなどの学校からの要望を取り入れながら工事計画を策定し、計画のとおり工事を実施し、改修工事により、学校環境の向上を図ることができました。				
事業名	中学校施設整備事業	所管課	教育施設課	決算額	132,660 千円
所沢市公共施設長寿命化計画に基づき、狭山ヶ丘中学校の屋上防水及び外壁改修工事、安松中学校の外壁改修工事を実施しました。					
評価	経年劣化や雨漏りなどの学校からの要望を取り入れながら工事計画を策定し、計画のとおり工事を実施し、改修工事により、学校環境の向上を図ることができました。				
事業名	学校施設修繕・改修事業	所管課	教育施設課	決算額	592,420 千円
経年により、老朽化や機能低下が進んでいる施設について、学校からの要望を取り入れて、荒幡小学校昇降口建具取替え工事、上山中学校空調設備改修工事や修繕を行いました。					
評価	学校から依頼を受ける修繕（建具の老朽化による動作不良修繕、老朽化が進んでいる設備修繕）について、臨機かつ迅速な対応ができました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

主要施策	(3) スポーツ活動の支援と環境整備	所管課	スポーツ振興課
-------------	---------------------------	-----	---------

施策の目標

スポーツ施設の計画的な修繕や改修工事等を行い、安全に利用できるよう施設整備に努めます。

スポーツ施設を予約する公共施設予約システムを適切に管理・運営し、利便性の維持・向上に努めます。

学校教育に支障がない範囲で学校施設（体育館や校庭等）を開放することにより、地域に根ざしたスポーツ活動を促進し、広く市民にスポーツ活動の場を提供します。

スポーツ推進委員をはじめとするスポーツ指導者の確保・育成に努めるとともに、研修会等により指導者の指導技術の更なる向上を図ります。

各種スポーツ団体が主体的・積極的に活動を展開できるよう支援します。

施策の内容と今後の方向

公共施設予約システム等更新事業については、開発委託が令和6年11月30日まで、システム利用及び保守と機器賃貸借及び保守が令和6年12月1日～令和11年11月30日までの5年間の契約締結をしました。今後は、令和6年12月1日からの稼働に向けて開発事業者と協力しながら進めます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	公共施設予約システム等更新事業〔新規〕 p.66にも掲載	所管課	スポーツ振興課	決算額	千円
	<p>公募型プロポーザルを実施し、次期事業者の決定及び契約締結を行いました。更新後の公共施設予約システムは、利用者画面や操作性が刷新され、スマートフォンやタブレットの画面サイズに合わせた専用画面が付加されるとともに予約までの手数が減少するなど利用者の利便性向上が期待されます。管理者側（職員側）については、これまでの操作方法が維持されるため、大きな混乱なく移行できることが期待できます。</p> <p>更新後の公共施設予約システムについては令和6年12月から稼働予定であるため、今後、事業者との協議を行いながら開発をし、スムーズな移行が出来るように進めます。</p>				
評価	<p>公募型プロポーザルを実施し、選定委員会による選定を行い、事業者を選定しました。更新後の公共施設予約システムについては、利用者の利便性向上が期待できるとともに、職員には更新による負担が少ないことが期待されるシステムを選定することができました。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります					
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます					
主要施策	(4) 社会教育施設の環境整備			所管課	社会教育課、所沢図書館	
施策の目標						
<p>市民の学習ニーズに応え、地域で活発な社会教育活動が行えるよう、公民館や図書館等の社会教育施設を安全かつ適正に管理・運営するため、計画的な修繕や改修工事を行うなど整備に努めます。</p> <p>学習施設等を予約する公共施設予約システムを適切に管理・運営し、利便性の維持・向上に努めます。</p>						
施策の内容と今後の方向						
<p>令和5年度は、所沢市公共施設長寿命化計画による公民館の改修（修繕）工事のほか、施設維持管理に必要な改修（整備）工事を行いました。また、所沢図書館本館の照明のLED化及び高天井の落下防止工事を行うため、設計業務委託を実施しました。</p> <p>令和6年度は、引き続き、老朽化が進む社会教育施設を計画的に修繕し、地域住民が安全に利用できる施設の維持に努めます。また、令和6年12月から新システムに切り替わる公共施設予約システムについても、引き続き、利用しやすいシステムを目指します。</p>						
主な事業の実施状況・評価						
事業名	所沢市立所沢図書館本館照明LED化整備事業〔新規〕	所管課	所沢図書館	決算額	7,645千円	
水銀灯が令和2年末で製造・輸入禁止となったことから、本館の照明をLED化し、あわせて高天井の落下防止工事を行います。令和6年度に改修工事を行うため、設計業務委託を実施しました。						
評価	令和6年度の改修工事実施に向けて、営繕課と調整の上、設計業務委託を発注し、滞りなく完了しました。					
事業名	公民館施設整備事業（新所沢東公民館バリアフリー化改修工事）〔新規〕	所管課	社会教育課	決算額	0千円	
同年に施工する自動昇降機（エレベーター）設置工事により、障害者や高齢者等が2階を利用する機会が増えるため、障壁だった和式トイレを洋式トイレに、部屋の開き戸を引き戸にする改修工事を行います。						
評価	令和5年度に施工予定でしたが、コロナ禍が収まりつつある中で工事が急増し、技術者確保が困難となり、年度内の工事が不可能となりました。予算を繰り越し、令和6年度と7年度の継続費として施工することとなりました。					
事業名	公民館施設整備事業	所管課	社会教育課	決算額	85,459千円	
「短期予防保全計画」に基づいて、吾妻公民館の自動昇降機及び小手指公民館の屋上防水それぞれの改修工事、山口公民館では太陽光発電設備設置と屋根改修工事のための設計を行いました。						
評価	所沢市公共施設長寿命化計画による複合化を目的に、利用者の利便性や施設の安全性を考慮し、修繕等の施設管理を行います。					

事業名	小手指公民館太陽光発電設備設置事業	所管課	社会教育課	決算額	0千円
太陽光発電設備約73kw及び蓄電池40kwhを導入し、平時における自家消費電力使用量の削減に伴う二酸化炭素排出量の削減に加え、災害停電時における特定負荷電力の確保による現地災害対策支部としての機能整備及び避難施設の機能維持のため整備を図るものです。					
評価	環境省の補助金を活用する予定で進めていましたが、補助金の交付決定が遅れて年度内工事完了が不可能となったため、予算を繰越明許し、令和6年度に施工します。				

事業名	公民館施設整備事業 (新所沢東公民館自動昇降機設置)	所管課	社会教育課	決算額	0千円
市内で唯一自動昇降機(エレベーター)のない新所沢東公民館に、地域住民の長年の強い要望もあり、新規に自動昇降機(エレベーター)を設置するものです。					
評価	前述のバリアフリー化改修工事同様、コロナ禍が収まりつつある中で工事が急増し、技術者確保が困難となり、年度内の工事が不可能となりました。予算を繰り越し、令和6年度と7年度の継続費として施工することとなりました。				

事業名	公共施設予約システム等更新事業[新規] p.64にも掲載	所管課	スポーツ振興課	決算額	千円
公募型プロポーザルを実施し、次期事業者の決定及び契約締結を行いました。更新後の公共施設予約システムは、利用者画面や操作性が刷新され、スマートフォンやタブレットの画面サイズに合わせた専用画面が付加されるとともに予約までの手数が減少するなど利用者の利便性向上が期待されます。管理者側(職員側)については、これまでの操作方法が維持されるため、大きな混乱なく移行できることが期待できます。					
更新後の公共施設予約システムについては令和6年12月から稼働予定であるため、今後、事業者との協議を行いながら開発をし、スムーズな移行が出来るように進めます。					
評価	公募型プロポーザルを実施し、選定委員会による選定を行い、事業者を選定しました。更新後の公共施設予約システムについては、利用者の利便性向上が期待できるとともに、職員には更新による負担が少ないことが期待されるシステムを選定することができました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

主要施策	(5) 就学にかかる経済的支援	所管課	教育総務課、保健給食課
-------------	------------------------	-----	-------------

施策の目標	<p>経済的な理由により就学が困難と認められる世帯に対し、経済的負担を軽減するため、給食費や学用品費等の一部を援助する「就学援助事業」を推進します。</p> <p>特別支援学級等に就学する児童生徒の世帯に対して、経済的負担を軽減するため、給食費や学用品費等の一部を援助する「特別支援教育就学奨励事業」を推進します。</p>
--------------	---

施策の内容と今後の方向	<p>依然として経済的な理由で子どもを就学させることが困難な保護者が多く、すべての児童生徒の保護者が就学援助事業の情報を得られるよう徹底した周知を行い、保護者負担軽減に努めました。</p> <p>○特別支援学級・通級指導教室に在籍・通級する児童生徒は、遠方の学校に通学するため、交通費等、通常学級に通う場合より、保護者の経済的負担が大きくなる傾向にあるため、今後も本事業を継続していきます。</p>
--------------------	---

主な事業の実施状況・評価

事業名	就学援助事業	所管課	教育総務課、保健給食課	決算額	277,854 千円
	<p>経済的に困窮している世帯に対し、就学にかかる経費の一部を援助しました。</p> <p>【援助対象】・準要保護認定者：小学生 1,981 人、中学生 1,151 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護（生活保護）世帯のうち修学旅行費支給者：小学生 26 人、中学生 26 人 ・要保護世帯のうち医療費支給者：小学生 2 人、中学生 0 人 <p>【援助内容】給食費、学用品、通学用品、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、林間学校費 修学旅行費、体育実技用具費（中学校）、医療費（指定された疾患のみ）</p> <p>【新たな取組】</p> <p>新入学学用品費入学前支給の案内に記載されている対象となる世帯の目安について、従来は就学援助の案内に記載されている目安をそのまま引用していましたが、世帯構成を見直し、より申請者の参考となるよう、新たな目安を作成しました。</p> <p>令和 5 年度は、申請受付期間を 1 か月前倒し（受付開始時期：3 月 2 月）することで、保護者の負担軽減と事務の平準化を行いました。</p> <p>就学援助のご案内について、従来は申請書を提出すると制度の案内の一部が手元に残らないレイアウトとなっていたのですが、令和 5 年度は、申請書を提出すると制度の案内が手元に残るよう、調整しました。</p>				
評価	<p>申請期間を 1 か月前倒しにしたことにより、3～4月に集中していた入力作業を分散させ、業務改善につながりました。また、申請期間に余裕を持たせることで、保護者の負担軽減にもつながりました。</p> <p>年度途中における主たる生計維持者の死亡、離婚に伴う家計急変世帯、生活保護の廃止世帯など、新たに支給対象になりうる世帯への制度周知を学校と連携し、一年を通して情報を得られるよう、より一層強化していく必要があります。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります		
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます		
主要施策	(6) 多様なニーズに対応した教育機会の提供	所管課	スポーツ振興課、学校教育課、教育センター
施策の目標	○経済的な理由や家庭の状況から、日本語の理解が困難な帰国児童生徒や外国人児童生徒に対し、個々の状況に応じた適切な支援を行います。		
施策の内容と今後の方向	外国人児童生徒の編入増加と国籍の多様化により、日本語サポーター派遣へのニーズが今後も高まることが予想されます。過去に支援を受けた児童生徒は、日本語への理解が深まり、学校生活に適應できるようになっておりますが、今後も、日本語サポーターによる支援の更なる充実を図っていきます。		

主な事業の実施状況・評価

事業名	所沢市部活動推進事業(運動部・文化部) [新規]	所管課	スポーツ振興課 学校教育課	決算額	140千円 150千円
	<p>令和4年6月6日にスポーツ庁の審議会である「運動部活動の地域移行に関する検討会議」により提言がまとめられ、令和5年度から令和7年度の3年間で改革集中期間と示されました。本市においても段階的に実施するため、令和5年度に検討委員会を立ち上げ検討委員会を全5回開催しました。</p> <p>【検討委員会 開催実績】</p> <p>第1回 令和5年4月28日(金)出席委員11人 第2回 令和5年5月24日(水)出席委員11人 第3回 令和5年8月22日(火)出席委員9人 第4回 令和6年1月19日(金)出席委員12人 第5回 令和6年2月6日(火)出席委員10人</p>				
評価	令和5年度は、検討委員会の協議のうえ、所沢市の方向性、運営方法について検討しました。また、児童生徒、保護者、教職員へのアンケートを実施し、現状を把握することができました。				

事業名	教育課題に対応した学力向上推進事業 p.13、p.14にも掲載	所管課	教育センター	決算額	1,080千円
	<p>「外国籍又は帰国児童生徒」に対して、日本の学校生活に適應できるような基本的な日本語や生活習慣等を身につけるための支援を行いました。</p> <p>日本語以外を母語^{*1}とする10人がネイティブサポーターとして登録し、日本語を母語とする20人がボランティアとして登録しています。今後もサポーターの募集を継続します。日本語サポーター派遣は、原則1回2時間、10回を1クールとして実施しました。</p> <p>^{*1}令和5年度ネイティブサポーター対応言語：ポルトガル語、スペイン語、英語、フィリピン語、タガログ語、中国語、インドネシア語、モンゴル語</p>				
評価	過去に支援を受けた児童生徒は、日本語への理解が深まり、学校生活に適應できるようになりました。そのため、昨年度より延べ実施時間数が396時間減少し、市内小中学校で延べ実施時間数742時間、日本語サポーターを派遣しました。				

7 指標の達成状況

基本方針 1	子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
--------	------------------------

基本目標 1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び*1	2.0レベル	2.4レベル	1.7レベル	毎年度 2.0レベル	85.0%
学力向上推進事業における研究委託校数 (各学校における研究実践とその成果の発表により、市内全小中学校の教育力向上を図るために研究を委託した年間の学校数)	20校	21校	20校	20校	100.0%
小学校における外国語教育についての研修実施率 (教員を対象にした外国語に関する校内研修等を実施した割合)	25%	3%	96.8%	100.0%	96.8%
ICTを活用して指導できる教員の割合 (電子黒板等のICTを活用して情報教育を指導できる小中学校教員の割合)	65.95%	78.46%	82.3%	100.0%	82.3%

*1…埼玉県学力・学習状況調査における前年度からの同学年における学力(国語、算数・数学、英語)の伸びの平均。

学力の伸びは、小4～中3までレベル1～12まであり、各レベル内でさらにA～Cの3層に分かれ算出される。

※「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

基本目標2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
学校の先生や友達は、自分のよいところを認めてくれていると考える児童生徒の割合 (埼玉県学力・学習状況調査における該当の質問に「はい」と答えた児童生徒の割合)	89.2%	92.0%	91.3%	92%	99.2%
学校図書館の年間一人あたりの貸出冊数	小学校 22.6冊 中学校 12.2冊	小学校 27.9冊 中学校 11.6冊	小学校 28.4冊 中学校 10.2冊	小学校 24冊 中学校 13冊	小学校 118.3% 中学校 78.5%
小中学校のいじめの解消率 (小中学校における12月末日現在のいじめの解消率*2)	51.2%	51.6%	51.6%	64%	80.6%

*2…いじめが解消している状態とは、相当期間(3か月を目安)いじめが止んでいること、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないことが要件。1月以降も継続指導、経過観察を行っており、年度末には概ね解消している。目標値64%は、県のH29の解消率と同一である。

基本目標3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
むし歯の処置率 (小中学校の健康診断で治療勧告されたむし歯の処置率)	小学校 78.1% 中学校 71.9%	小学校 69.9% 中学校 73.1%	小学校 70.1% 中学校 71.9%	小学校 90% 中学校 85%	小学校 77.9% 中学校 84.6%
学校給食センターの再整備*3	老朽化した学校給食センター 2施設	—	—	再整備した学校給食センター 1施設	100.0%
給食の残食率 (小中学校全体の残食率*4)	6.3%	6.07%	6.12%	毎年度7%以下	114.4%
体カテストにおける上位ランクの児童の割合(小学校)*5	78.9%	75.0%	73.7%	80.0%	92.1%
体カテストにおける上位ランクの生徒の割合(中学校)*5	87.9%	81.8%	82.0%	89.0%	92.1%

*3…まずは、第3学校給食センターの代わりとなる新学校給食センターを整備する。

*4…過去5年間の平均残食率は6.1%。現状値よりも高い残食率にある学校を減少させていくよう努めていくものとする。

*5…新体カテストの総合評価(文部科学省が示すテストの種目ごとの得点から換算)が5段階中の上位3ランクの評価となった児童生徒の割合。

基本方針 2	学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
--------	----------------------------

基本目標 1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
教育委員会で実施の 生涯学習関連事業数 (教育委員会の各部署が実施した 生涯学習関連事業の件数)	43件	47件	45件	50件	90.0%
生涯学習ボランティア人材バン クの登録者数 (資格・経験を活かしたい人を登 録し、学びたい人に紹介する人材 バンク制度への登録者数)	117人	115件	93人	145人	64.1%
人権講座の参加者数 (ブロック別研修会などの人権教 育の講座に参加した人数)	762人	325人	453人	790人	57.3%
公民館事業のうち市民等と協働 で企画実施した事業の割合 (実行委員会を組織して企画運営 するなど、市民等と協働で実施し た事業の割合)	58.8%	60.3%	59.8%	64.0%	93.4%

基本目標 2 誰もが、いつまでも 身体を動かしたくなるまちをめざします

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
週1回以上スポーツを 実施する成人の割合 (スポーツ実施率)	38.2%	39.0%	51.9%	50.0%	103.8%
「ところざわほっとメール」に おける「スポーツ情報」の利用 登録者数	4,554人	6,946人	6,752人	6,300人	107.2%
市ホームページ等の スポーツ情報発信数 (市内のスポーツイベント等の情 報発信回数)	213回	296回	432回	300回	144.0%

基本目標3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
レファレンス件数 (専門的な調査を要する市民からの質問に対し、図書館資料や情報検索機能を活用して回答した数)	1,217件	845件	761件	1,367件	55.7%
貸出密度 (市民1人あたりの貸出数)	4.7冊・点	4.4冊・点	4.1冊・点	5.0冊・点	82.0%
図書館の蔵書数 (適正な蔵書管理による図書館全館の図書資料【雑誌・視聴覚資料を除く、紙芝居を含む】の蔵書数)	967,022冊・点	1,007,457冊・点	1,016,334冊・点	1,034,000冊・点	98.3%
子ども1人あたりの児童書数 (0歳から18歳の子ども1人あたりの市立図書館が所蔵する児童書数)	5.8冊・点	6.5冊・点	6.7冊・点	6.4冊・点	104.7%

基本目標4 歴史・伝統文化を大切にしふるさと所沢の魅力を高めます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
文化財保護にかかる事業の参加者数 (文化財保護課の主催事業の参加者数と埋蔵文化財調査センターと民俗資料館の利用者数)	9,450人	6,283人	7,212人	11,600人	62.1%
ふるさと研究活動にかかる延利用者数 (展示見学者・講座参加者・閲覧学習室利用者の延総数)	5,882人	4,534人	5,344人	6,150人	86.8%
郷土資料利用件数 (資料利用許可数と閲覧学習室の利用件数)	389件	939件	1,010件	440件	229.5%

基本方針 3	地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
--------	-------------------------

基本目標 1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
家庭教育学級の学級生数 (小中学校で開設される家庭教育学級の学級生数〔保護者等〕の人数*6)	3,003人	2,009人	2,763人	3,000人以上	92.1%
子ども写生大会事業参加者数 (子ども写生大会と作品展の大人と子どもの参加者数)	3,116人	1,931人	2,016人	3,300人	61.1%
青少年教育地域指導者研修会満足度 (研修会後に実施したアンケート調査で「とてもよかった」と回答した人の割合)	80%	65%	82%	100%	82.0%

*6…少子化に伴い保護者の減少が予想されるが、現状維持に努めていくものとする。

基本目標 2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数 (市内小中学校において学校応援団として活動に携わった実人数の合計)	5,603人	3,761人	5,650人	6,110人	92.5%
小中連携の推進に向け、「目指す児童生徒像」や「重点目標」を設定し、9年間を見通したカリキュラムを編成している小中学校の割合*7	12.8%	80%	85.1%	100%	85.1%
教育センターが実施する教職員研修の満足度 (参加者アンケートで「大変よかった」「ややよかった」の合計が100%となった研修会の割合)	84%	59.0%	61.0%	100.0%	61.0%

*7…カリキュラムとは、学習規律、授業での約束、発達段階を踏まえた教科指導等、教育課程の中での「目指す児童生徒像」を具現化したもの

基本目標3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和4年度)	最新値 (令和5年度)	目標値 (令和5年度)	達成率
普通教室のLAN整備率 (小中学校の普通教室で教育ネットワークを活用した授業が可能となる割合)	0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市内小中学校における 電子黒板の導入割合*8 (「ICT環境整備」に資する電子黒板の導入割合)	17%	100.0%	100.0%	45.0%	100.0%
学校トイレの洋式化率 (所沢市立小中学校のトイレの洋式化率)	35%	54.6%	57.7%	53%	108.9%
スポーツ・レクリエーション施設利用者数 (屋内・屋外スポーツ施設の年間利用者数)	858,492人	725,134人	801,114人	861,500人	93.0%

*8…令和2年度に児童生徒1人1台の学習者用コンピュータを整備したことにより、全ての普通教室及び一部の特別教室に大型提示装置が早急に必要となったことから、導入装置を電子黒板から液晶ディスプレイに変更し、全ての普通教室に液晶ディスプレイを導入した。

8 教育委員会の活動状況と教育費の予算、決算

(1) 令和5年度教育委員会会議の開催状況

定例会

年月	付議事件
令和5年4月	所沢市立所沢図書館資料複写取扱規則の一部を改正する規則制定について
	所沢市就学支援委員会委員の委嘱について
	令和5年度教育委員会予算(6月補正)について
	令和6年度使用小学校用教科用図書採択に係る、所沢市立小・中学校用教科用図書選定委員及び教科用図書調査研究専門員の任命について
	令和4年度教育委員会予算(6月補正・追加)について
5月	教育機関の廃止について
6月	所沢市立学校設置条例の一部を改正する条例制定について
	所沢市立学校給食センター設置及び管理条例の一部を改正する条例制定について
	所沢市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
	所沢市社会教育委員の解嘱および委嘱について
	所沢市公民館運営審議会委員の委嘱について
	令和5年度教育委員会予算(9月補正)について
7月	令和6年度使用小・中学校用教科用図書の採択について
8月	令和5年度所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書について
	令和6年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
9月	所沢市生涯学習推進センター運営協議会委員の委嘱について
	令和6年度当初所沢市立小・中学校教職員人事異動の方針について
	令和5年度所沢市教育功労者の表彰について
10月	令和5年度教育委員会予算(12月補正)について
	令和6年度教育委員会当初予算について
11月	所沢市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令について
12月	所沢市安全・安心な学校と地域づくり推進本部条例の一部を改正する条例制定について
令和6年1月	第3次所沢市教育振興基本計画の策定について
	第3次所沢市スポーツ推進計画の策定について
	令和6年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
	令和5年度教育委員会予算(3月補正)について
2月	所沢市教育委員会文書管理規程及び所沢市教育委員会職員安全衛生管理規程の一部を改正する訓令について
	令和5年度教育委員会予算(3月補正・追加)について
	令和6年度教育委員会当初予算(補正)について
	県費負担教職員(管理職)の人事に関する内申について
3月	第4次所沢市子どもの読書活動推進計画の策定について
	令和6年度所沢市教育行政推進施策について
	所沢市いじめ問題対策委員会委員の委嘱について
	所沢市教育委員会職員(管理職)の人事異動について

教育委員会会議の会議録は、市のホームページに掲載しております。

協議事項

年 月	付 議 事 件
令和5年4月	所沢市学校設置条例及びその他の条例の一部改正及び廃止について
7月	令和5年度所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書について
8月	第3次所沢市教育振興基本計画素案について
11月	第4次子どもの読書活動推進計画素案について
令和6年2月	令和6年度所沢市教育行政推進施策について

視察

年 月	視 察 場 所
令和5年5月	宮前小学校、北中小学校、中富小学校、中央小学校
10月	北野中学校、安松中学校、中央中学校
11月	柳瀬中学校

教育懇談会

年 月	懇 談 内 容
令和6年1月	「コミュニティ・スクール」導入モデル校による実践報告

その他

活 動 内 容	
埼玉県市町村教育委員会連合会総会	市内小中学校運動会・体育祭
関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会・研修会	入間・比企地区合同教育委員研修会
入間地区教育委員会連合会視察研修	所沢市二十歳のつどい
市内小中学校入学・卒業式	
所沢第二幼稚園入園・卒園式	

(2) 令和5年度教育費予算・決算

令和5年度教育費（歳出）の当初予算額は149億3,737万円で、市費全体の中で占める割合は13.0%、決算額は136億1,759万円で、市費に占める割合は11.0%でした。

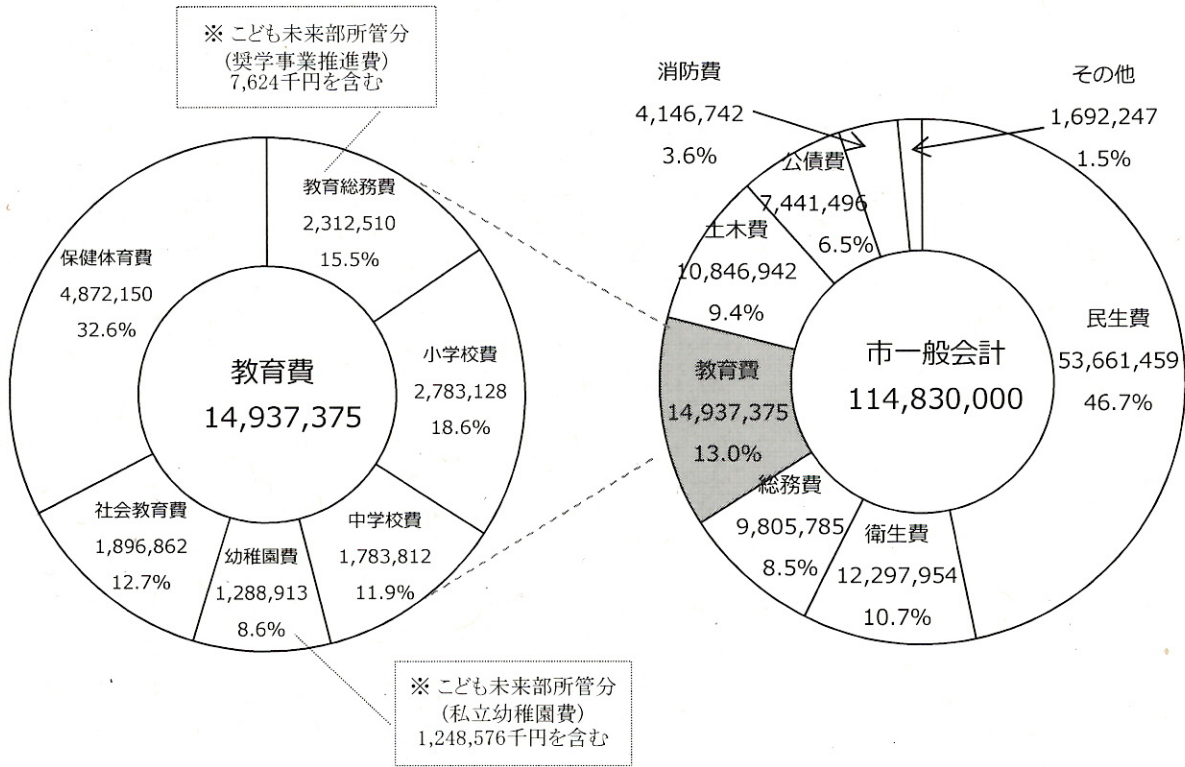
決算額のうち、教育費を市民一人あたり^{*1}に換算すると39,580円、小学校費・中学校費の合計額を児童生徒一人あたり^{*2}に換算すると163,839円となります。

*1 市内の人口 344,054人（令和5年5月1日現在）

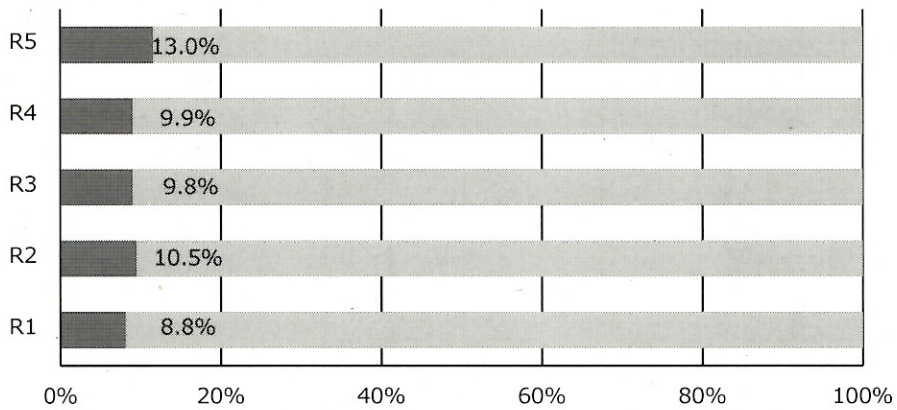
*2 児童生徒数 小学校15,908人、中学校7,638人 合計23,546人

（学校基本調査による児童・生徒人数 令和5年5月1日現在）

令和5年度当初予算（単位：千円）



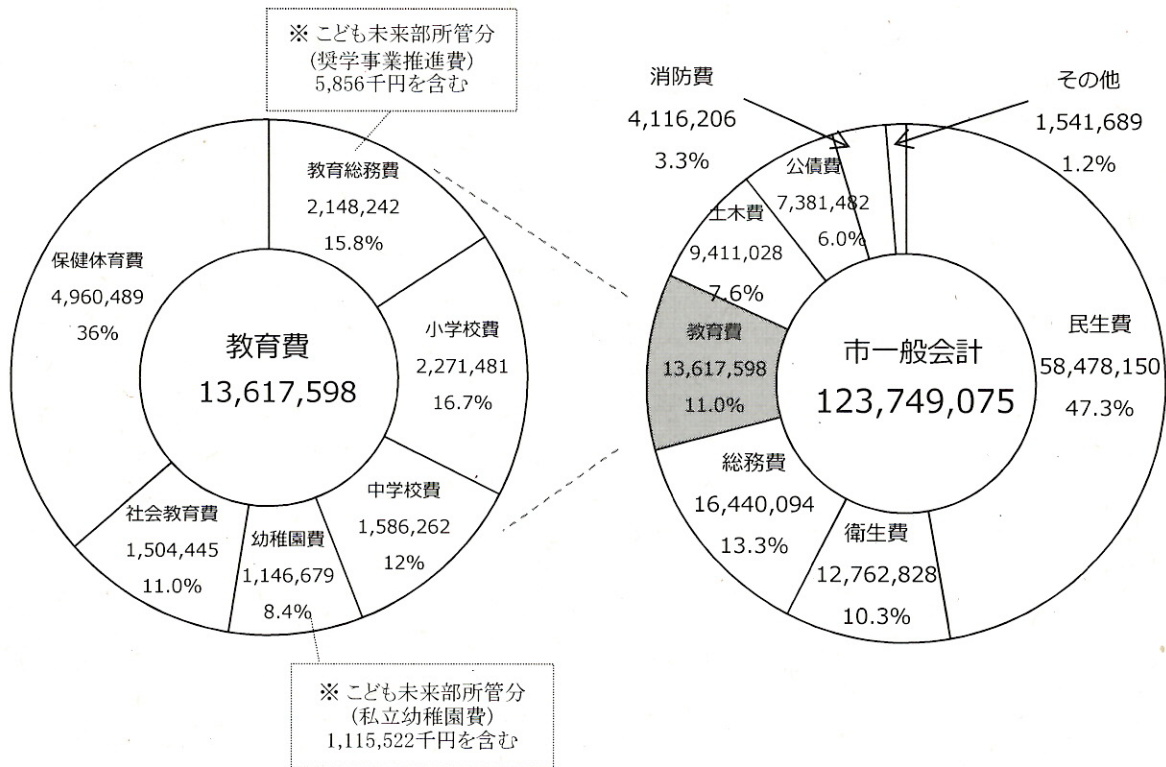
市費に占める教育費の割合の推移



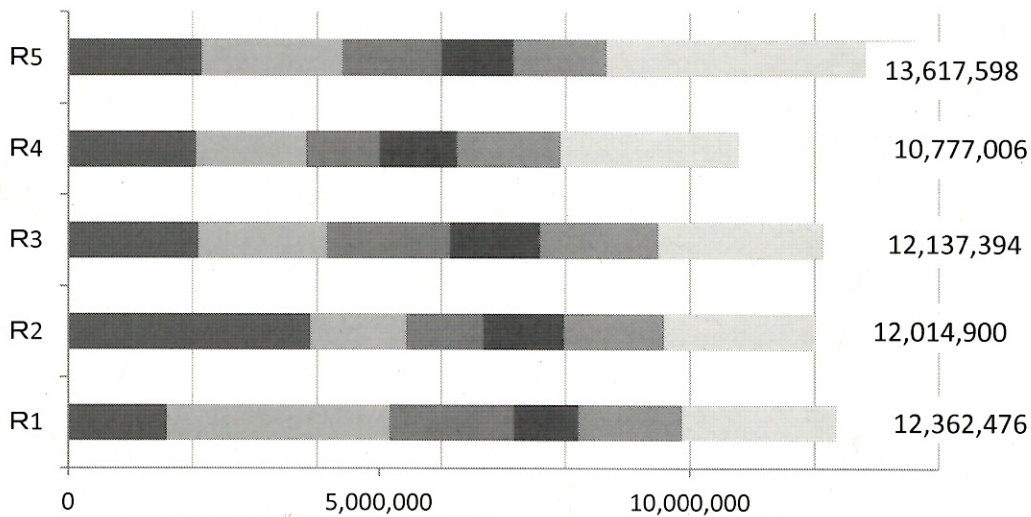
	R1	R2	R3	R4	R5
■ 教育費(千円)	9,647,917	11,184,777	10,574,683	10,952,534	14,937,375
■ 市費(千円)	109,480,000	106,400,000	107,400,000	110,330,000	114,830,000
■ 割合(%)	8.8%	10.5%	9.8%	9.9%	13.0%

※当初予算

令和5年度決算（単位：千円）



項目別教育費決算額の推移



	R1	R2	R3	R4	R5
■ 教育総務費	1,579,664	3,889,611	2,092,436	2,051,846	2,148,242
■ 小学校費	3,593,784	1,552,370	2,077,443	1,772,211	2,271,481
■ 中学校費	1,989,369	1,231,533	1,966,423	1,183,660	1,586,262
■ 幼稚園費	1,046,644	1,297,595	1,446,408	1,242,006	1,146,679
■ 社会教育費	1,658,490	1,612,985	1,901,619	1,671,916	1,504,445
■ 保健体育費	2,494,525	2,430,806	2,653,065	2,855,367	4,960,489

※単位：千円

9 むすび

所沢市教育委員会では、令和2年3月に策定した「所沢市第2次所沢市教育振興基本計画（令和元年度～令和5年度）」に基づいて教育行政を推進しており、この点検評価は、基本計画に掲げた主要施策について行っています。

施策ごとに点検評価を行うことで、計画の進捗状況を適切に把握するとともに、各施策に対応する主な事業の実施状況も併載し、事業ごとに実施状況の確認ができるよう作成しています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の部類が5類に移行し、日常が戻る中で従来の方法で実施した事業もありました。アフターコロナを迎える今、安全・安心の確保と学びの保障を両立できるよう、工夫を凝らして事業を行うことが求められています。予測不能な変化の激しい時代に柔軟に対応するため、他部署との連携・協働をこれまで以上に進めてまいります。

教育委員会は、「みんなが持っている三つの”宝”」すなわち「心身のたくましさ」「未来を拓く知恵」「ふるさと所沢を愛する心」を掘り起こして大きく育てるという基本理念のもと、目標の実現に向けて、引き続き努力していく必要があると考えます。

今回の点検評価によって明らかになった課題に対し、学識経験者からいただいた意見を参考にして各事業の改善に取り組み、今後も効果的な教育行政の推進に努めてまいります。



教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書

令和6年8月

発行 所沢市教育委員会（教育総務部教育総務課）

〒359-8501 所沢市並木一丁目1番地の1

TEL 04-2998-9232

FAX 04-2998-9128

E-mail a9232@city.tokorozawa.lg.jp